

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 中部中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	人権を尊重し豊かな人間性が育つ教育をめざします (道徳・人権教育の充実)	3
主な方策 成果と課題	<p>1. 教師も生徒も伸びる人権教育 (学校見学会や道徳・人権教育の授業公開。地域・保護者と共に講演会の実施)</p> <p>2. 小中の系統立った道徳・人権学習 (小中「学びの一体化」を通じた具体的な道徳・人権教育の系統立て)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業公開に向けて、学年で検討を重ね、研修することができた。見学会や講演会でも、たくさんの地域の方が来校され、意識が高いと感じる。 ・部落問題学習から人権宣言以降の学習をし、今自分のできることは何かを考えさせ、人権メッセージという形で、残すことが出来た。 ・特別支援学級生徒、外国人生徒と日々生活を共にすることで、自然な形で「違いを認める」感覚は身につけている。 ・外国人教育検討委員会を定例化したことで、個々の生徒の課題が明確となり、取り組む方向性がはっきりした。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師自身の人権意識を振り返り、自分を見つめているかが課題。 ・生徒は学習したことを普通の生活にいかしていくことができているのか、学習が知識にとどまっていな日常生活や生き方につながっているか、課題が残る。 ・小中それぞれに教育実践はすすんでいるが、教材や主題の連携、発達に応じた系統立てた指導は十分ではない。 ・県下で数少ない難聴学級を有するとともに、外国人教育の拠点校となっている本校であるが、全ての教職員が必ずしも特別支援教育や外国人教育に精通しているとはいえない。高い意識をもって、研修の充実に努めたい。 	

重点目標 2	自ら学ぶ力が育つ授業づくりをめざします (毎日の授業の充実・学力の向上)	3
主な方策 成果と課題	<p>1. 朝の学習活動(読書)の実施 2. 個に応じた多様な対応(少人数授業、補充学習の実施)</p> <p>3. 興味・関心に対応した授業づくり(ICTを活用した授業づくり。開かれた授業を通して、職員相互の自己研修のすすめ) 4. 教育課程と評価の明確化と公開(シラバスの作成と開示。評価基準と評価方法の明確化と開示) 5. 基礎学力の定着(少人数授業、長期休業中の補充学習、試験期間中の放課後勉強会の実施。家庭学習の充実) 6. 自己表現活動の充実(人権・環境・国際等を題材に、生徒の情報活用活動、調べ学習活動、学習発表活動を実施) 7. キャリヤ教育の推進(地域スペシャリスト授業、職業体験の実施)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書をきっかけに、本を読む生徒、本を読むことに抵抗を感じない生徒が増えた。 ・毎時間の復習になる家庭学習、授業前の宿題チェックが定着し、規律ある授業準備や授業スタートが徹底できている。また、個に応じて教材を変えるなど工夫して進められている。 ・年度初めの授業で評価基準を伝え、それに沿った評価が実施されている。 ・補充学習は、基礎学力の定着と、今までの学習の振り返りをする時間になっている。 ・少人数授業は、みえスタディチェックからも成果がうかがえる。家庭学習を含む勉強の方法や問題への取り組み方、補充学習の進め方などについて指導ができたため、家庭学習のパターンを習慣化できた。 ・ICTの活用は、どの教科も年間を通して積極的に行うことができた。 ・1年生で地域スペシャリスト授業、2年生で職業体験を行い、地域との結びつきや地域の人材をいかした取り組みを進め、生徒一人一人のキャリアを育てた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題はやってくるものの、自力でできない生徒や、読書の本を開いているだけで、なかなか集中して読むことのできない生徒への支援が必要。 ・地域スペシャリスト授業等、外部講師との打合せを密にし、生徒の活動時間の確保に努める。 ・講義形式の授業からアクティブラーニングの視点をふまえた授業への転換に努めなければいけない。 ・ICTを活用した学習が進んでいる一方、図書室を利用した調べ学習が不足している。 ・地域スペシャリスト授業や職業体験をさらに地域に根差した形で実施したい。 ・教科部会や研究協議会等、同教科の横の連携や研修の充実が必要。 ・ICTを活用した授業づくりのため、機材を含めたハード面の充実が求められる。 	

重点目標 3	毅然とした指導、心と体が育つ生徒指導をめざします (生徒指導・教育相談の充実)	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>1. 指導体制の充実(地域・関係機関との連携した指導の充実) 2. 不登校生徒への支援と対応(不登校生徒の支援の充実。スクールカウンセラーとの相談指導体制の確立) 3. 基本的な生活習慣と生活規律(基本的な生活習慣・規律ある生活の確立。服装や礼儀、挨拶等マナーに関する指導)</p> <p>4. 部活動の充実(小6の部活見学会の実施。規律・礼儀を重視する指導。活動時間の確保と原則全員参加制) 5. いじめ問題の対応(定期的ないじめアンケートの実施。教育相談や生活ノートの活用)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーや外部機関と連携してすすめることができた。 ・生活ノートの活用と休み時間の見守りなど、日常の取り組みにおいて生徒の実態把握が行えた。 ・「授業開始の2分間」を合言葉に、規律ある授業の開始が定着しつつある。 ・躊躇なく関連機関と相談、連携をすることで、組織立った対応が確立してきた。 ・生徒指導部を中心に、学校全体で生徒指導に取り組むことができています。 ・結果よりも取り組みを重視した部活動が、学校に活気をもたらしている。 ・地域の方から声が届く体制ができています。 ・毎週行う朝集会は、規範意識の向上と生徒が主体的に行う活動として有効に機能している。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の解決に向けて、生徒へのアプローチだけでなく、保護者への受容と共感、連携の部分がこれまで以上に求められている。 ・不登校生徒の復帰プログラムについては、マニュアルに頼るのではなく、個別にプログラミングをしなければならない。 ・交通安全指導においては、地域に協力を求め、小中の連携がもとまりながらすすめたい。 ・不登校問題の解決にむけ、担任個人の姿勢でなく、学校として基本姿勢、継続性・系統性について真摯に反省し、見直しを図る。 	

重点目標 4	個々の生徒の実態に応じたきめ細かな教育をめざします (外国人教育・特別支援教育の充実)	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>1. 外国人生徒の進路保障(日本語適応指導。学力保障・進路保障。個別支援計画の実施)</p> <p>2. 異文化理解 3. インクルーシブ教育の構築(個に応じた個別指導と交流学習の推進。保護者との共通理解。個別支援計画の実施)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画を基に、保護者と連絡を取り合いながら、特別支援教育を進めることができた。 ・文化祭での外国人生徒の発表は、学校全体に異文化理解への意識が広がる機会となっている。 ・国際理解教育から多文化共生の教育へと取り組みが一步進んだ。 ・外国人生徒の進路保障と特別支援教育の共通点を見出し、個別支援計画に沿ったインクルーシブ教育システムの構築をすすめることができた。 ・学習ボランティアによる放課後学習会は、特に外国人生徒の補充学習として、成果をあげている。 ・外国人教育では、学習の個別化を図り、教科担当、適応指導員が熱意と責任感をもって関わっている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導の自校マニュアル作りをすすめ、全職員での共有を図りたい。 ・家庭に支援が必要な保護者との連携、連絡は、コミュニケーションがとりにくいこともあり、共通理解に不安がある。 ・様々な言語に対応できる通訳、翻訳ボランティアの方の発掘などが必要。 ・異文化理解は、外国人生徒側の文化祭等での発表にとどまっておらず、多文化共生教育に向かっていきたい。 	

重点目標 5	コミュニティの力で育つ「開かれた」学校をめざします (生徒・家庭・地域が一体となった学校)	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>1. 開かれた学校 (授業公開・学校参観の実施。地域行事への参加。保幼小中・PTA・地域との連携。コミュニティの推進。)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページはよく更新され、関心も高まり、閲覧数も増えた。 ・授業公開や土曜授業、体育祭、文化祭などの学校行事には保護者だけでなく、地域の方にもたくさん参加してもらえた。 ・小学校への授業参観は、次に上がってくる中学校への連携につながるので、継続して行いたい。 ・行事の情報をリアルタイムで届けることで、保護者への安心につながっている。 ・PTAとの連携が、管理職中心に深まっている。各行事などを通じて、より地域や保護者との連携が強くなった。 ・ウェルカムボードの設置など、来校者を温かく迎えられた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テスト翌日の授業公開等、日程的に再考が必要。 ・より多くの学校参加に向けて、保護者や地域の方が参画できる内容へと工夫が必要。 ・地域行事に生徒が参画できるような場の設定と内容の工夫が求められる。 ・運営協議会が教育活動の参観、承認に終始している。学校運営への参画をすすめたい。 	

2 改善方針

・<課題>の部分について、各主任を中心に改善方針を立て、常に情報を共有しながら組織としての学校運営を心がける。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 橋北中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
<p style="text-align: center;">主な方策 成果と課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 反復や繰り返しによる基礎的基本的な学習の定着をはかります。 2. 少人数のよさを活かし、きめ細かい指導を工夫します。 3. 学び合いを大切に、問題解決能力の向上をめざす授業づくりをします。 4. 家庭学習の取り組みをすすめます。 5. 教職員の自己相互研鑽を深め、教師力の向上をはかります。 <p>○生徒の状況に応じた自作プリントの作成による朝学習やテスト前・放課後の補充学習によって、効果的な基礎学力の定着を図ることができた。</p> <p>○少人数のため、個々の特性や能力が把握しやすく、個々のつまずきに対して丁寧に指導することで学習意欲の向上を図ることができた。</p> <p>○教育実践研究推進校区として、アクティブ・ラーニングと問題解決能力向上のための5つのプロセスを大切に授業づくりを進めることにより、生徒たちが主体的で対話的な学びを行うことができ、自分の考えを深めることができた。</p> <p>○家庭学習帳「Let's Study」と家庭学習のポイント指導による家庭学習の習慣化の取り組みが効果を上げた。しかし、取り組みについていけない生徒もおり、学習課題に工夫と支援が必要である。</p> <p>○教師数が少ないため、校外研修に出にくいことや同一教科の教師がいないことから教師自身の教科の授業力向上が図りにくい状況にある。</p> <p>○本校生徒の課題であるコミュニケーション力の向上を継続した課題とし、実践校区としての取り組みをさらに深化させていく必要がある。</p>	
重点目標 2	キャリア教育の推進	3
<p style="text-align: center;">主な方策 成果と課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自立に向けて「当たり前のことを当たり前でできる」指導をします。 2. 成就感や自己肯定感を高める教育活動を工夫します。 3. さまざまな活動を通して豊かな心と健康な体づくりをすすめます。 4. 社会的・職業的自立に向けた4つの力の向上を意識した教育活動をすすめます。 (4つの力：つながる力、みつめる力、うごく・いかす力、めざす力) 5. 特別支援教育の充実を図ります。 <p>○基本的な生活習慣を身につける、学校や社会のルールを守る、人とのかかわりを大切にする、努力するなどの「当たり前のことを当たり前にする」ことができおり、落ち着いた学校生活を送ることができている。</p> <p>○行事では生徒の活動を大切に、協力してやり遂げることから達成感や責任感を味わわせたり、他者の良いところを見つけたりするなど、自己肯定感を高める取り組みができた。今後は行事だけに限らず日々の活動においても、さらに取り組みを進めていく必要がある。</p> <p>○専門委員会活動を通して、学校医と連携を取りながら、生徒に健康に関心を持たせ、健康増進につなげることができた。体力テストの結果も良好である。</p> <p>○職業や社会貢献に対する意識が低いことから、様々な分野のゲストティーチャーを招聘し、多種多様な考え方や生き方について体験させることができた。これらを利用し、キャリア教育を一層充実させ、社会的な自立を醸成させる必要がある。</p> <p>○特別支援教育では、スモールステップで、できそうなことから少しずつ取り組み、意欲を高めた。教職員全員でかかわれる体制を築いたが、相互の連携がスムーズに行えなかった。</p>	

重点目標 3	地域とともにある学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>1. 地域人材を活用した教育活動をすすめます。 2. 生活習慣の向上を家庭・地域に働きかけます。 3. 学びの一体化による保幼小中の連携をすすめます。</p> <p>○ゲストティーチャーの招聘は多数行ったが、橋北地区の人材を利用するまでには至らず、その発掘と利用方法について模索をしていく必要がある。 ○規則正しい生活習慣に関しては概ね良好ではあるが、スマホやゲームの時間が多いことなど、課題が見られるため、その危険性について保護者に啓蒙していく必要がある。 ○学校づくり協力者会議に生徒が参加し、挨拶等の生活習慣の向上に関わる取り組みについてアドバイスを受けるとともに地域の協力も得られることができた。 ○地域行事への参加、保幼小との行事への合同参加、小学校への乗り入れ授業の取り組みなど園児・児童・生徒・教師の交流を図ることができた。 ○教育実践研究推進校区の取り組みを軸に学びの一体化の取り組みを進めることができたが、その取り組みに集中したため、道徳や人権、キャリア教育についての研修が不足した。 ○学校HPの毎日の更新や学校通信、学年通信の定期発行などを通して、学校の様子を保護者・地域に発信することができた。</p>	

2 改善方針

<p>○本年度の教育実践研究推進校区の核であった問題解決能力向上のための5つのプロセスとアクティブ・ラーニングの取り組みを継続させるとともに、振り返りや評価を大切に授業づくりをさらに進めていく。</p> <p>○生徒の基礎学力の定着をさらに進め、個々の能力にあった指導を行うために能力別の少人数授業を展開していく。</p> <p>○キャリア教育の具体的な学年指導計画を立て、これを学びの一体化の歯車として、成長段階に応じた指導を行い、途切れのない教育と支援につなげていく。</p> <p>○生徒のコミュニケーション力を向上させるために授業・行事における活動だけではなく、日常生活から教師対生徒、生徒同士、生徒対地域住民のつながりを醸成していく。</p> <p>○「Let's Study」を利用した家庭学習の定着を継続して図るとともに、定期的放課後学習を実施して、未定着生徒への家庭学習の仕方等のアドバイスを計画していく。</p> <p>○様々な事業等を活用し、学校経営や研修等の出張旅費に充て、授業力向上への手助けとしていきたい。</p> <p>○地域の人材によるゲストティーチャーを活用したキャリア教育のカリキュラムを模索することと人材の発掘及びその登録を進めていく。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 港中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	心を豊かにする	4
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 ＜認め合い高め合う仲間づくりの進展＞・リーダー会の定例化 ・行事での縦割り集団の活用 ・生徒集会の実施 ・さまざまな分野での講演会の実施 ・読書活動の推進 ・カウンセラーによる研修会の実施 ＜基本的な生活習慣の定着＞ ・あいさつ、清掃活動、身だしなみの定着</p> <p>【成果】 ・学年リーダー会を定期的に行うことで、生徒を中心とした日常生活の見直しや学年行事の取り組みを実施することができた。 ・体育大会の準備や生徒集会に縦割り集団を取り入れることで生徒の意欲を高めるとともに、仲間づくりにつなげることができた。 ・生徒会を中心とした全校体制での「いじめ防止標語」に取り組んだり、文化委員による「読書1分間コメント」の発表、保健委員による健康集会を行うなど、生徒集会の内容を充実させることができた。 ・例年の人権講演会のほかに、「命を考える講演会」や医師による「性」についての講演会、ネットモラル講習会やYESnetの活用など、さまざまな講演会を行うことができた。 ・昨年度に引き続き、読書1分間コメントや、担任以外の教師による読み聞かせ「お話宅配便」、司書による定期的ブックバイキングや教科指導や保健指導で活用できる本の紹介に取り組み、読書への関心をさらに高めることができた。 ・スクールカウンセラーや市教委の大学連携事業を活用した外部の専門家による研修に取り組み、日頃の生徒との対応や教育相談に生かすことができた。 ・生徒会や委員会の活動として、あいさつ・清掃・身だしなみに関しての呼びかけや点検に取り組みすることができた。</p> <p>【課題】 ・定期的な学年リーダー会や生徒会の取り組みのための時間の確保が難しい場合があるので、内容の精選と計画的な取り組みを心がけていきたい。 ・より一層、生徒の仲間づくりや自己肯定感の高揚を意欲した体育大会や文化祭のあり方を検討していきたい。 ・多くの生徒はしっかりあいさつや清掃活動をすることができているが、目的意識を持たせ、形だけではなく、心とつながった行動にするための具体的な取り組みを工夫していきたい。 ・多くの生徒に基本的な生活習慣がしっかり身につけており、落ち着いた学校生活を送っているが、身だしなみや清掃活動などに現れる生徒の小さな変化を見逃さない姿勢を大切にしていきたい。</p>	
重点目標2	知恵を育む	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 ＜基本的な学習習慣の定着＞・家庭学習の習慣化 ・補充学習の充実 ＜学び合う授業の充実＞・コミュニケーション力をつける学習の推進</p> <p>【成果】 ・定期テスト前に学習計画表を活用して家庭学習のようすを確認することで、学習習慣の定着を図ることができた。 ・月曜日の補充の時間に全校体制で定期テストにむけての補充学習を行うことで、教科担当が他学年の場合でも指導できるようにした。また、テスト当日に自習時間をもうけ、提出物の確認などに取り組みさせることで、提出率の向上につなげた。 ・必要に応じて少人数グループを活用することで、生徒のコミュニケーションを図ることができた。</p> <p>【課題】 ・毎日の家庭学習のやり方で悩んでいる生徒がみられるので、各教科で具体的な学習方法を伝えていく取り組みをすすめたい。 ・正解か不正解かだけにとらわれずに、知識や技能を活用して試行錯誤しながら主体的に思考する力をつけていきたい。 ・まちがいを気にせず自分の考えが出せる関係づくりや、発表を引き出す発問をさらにより一層工夫する必要がある。</p>	

重点目標 3	安全で健康な生活を送る	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な交通安全指導の実施 ・避難訓練の実施 ・早寝早起き朝ごはんの習慣化 ・食べることの大切さの意識化（食育） ・体育行事の充実 ・休憩時間の過ごし方 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室を実施することで、生徒の交通ルールに対する意識が高まった。 ・学校が避難所になった場合を想定した教師の研修会や、三重大大学の川口教授による生徒対象の防災講座を行ったことで、防災（減災）意識の高まりがみられた。 ・委員会活動でアンケートを実施するなど、ふだんの生活をふり返させることで規則正しい生活の習慣化を図ることができた。 ・家庭科の授業やPTAの行事（「おせち料理づくり」）で栄養教諭を有効に活用することができた。 ・休憩時間に体育館やグラウンドで集団で体を動かす生徒が多くみられ、体力づくりと仲間づくりにつながった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホやパソコンの利用状況の改善や朝ごはんの習慣等は、家庭との連携が欠かせないので今後とも働きかけを工夫していきたい。 ・交通ルールや防災への意識づけについては継続的な指導が大切なので、これからも地道な取り組みをしていきたい。 ・休憩時間の施設開放はこれからも続けていきたい。 	

重点目標 4	“学び舎”をつくるための手段	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数グループ活動を生かした授業 ・問題解決能力を高める授業をめざした研修の推進 ・OJTの推進 ・学びの一体化の推進 ・学校ホームページや各種通信での情報発信 ・外部講師の活用 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数グループを使った話し合い活動を通して、互いを高め合う活動をめざすことができた。 ・問題解決能力を高めるための授業づくりについて、「四日市モデル」の研修を進めることができた。 ・小中双方の要望を出し合うことで効率的な乗り入れ授業や授業参観を実施することができた。 ・行事のときだけでなく、日常的な生徒の活動のようすも伝えていくことで、学校ホームページの充実に努めることができた。 ・合唱指導を地域の専門家に行っていただいたり、社会福祉協議会をとおして視覚障がい者との交流を行うなど、外部講師を有効に活用することができた。また、地元企業による出前授業や博物館の見学など、地域の資源を活用することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数活動が形式的なものにならないように、どんな面でどのように活用していくのがより効果的なのかの見直しをすすめていきたい。 ・問題解決能力の向上の取り組みとしての「めあて」の設定やノート指導などについては、今後とも研修を継続していきたい。 	

2 改善方針

【重点目標1「心を豊かにする」について】

- ・あいさつや清掃の意義の再確認や、具体的な指導方法を明確にし、本校の伝統としてより一層、取り組んでいきたい。
- ・グループワークなど、授業や日常的な活動の中に、生徒の自尊感情の向上につながるような場面を多く設定することを心がける。
- ・生徒が「将来どんな人間になりたいか」について考える機会を各種行事や人権教育、道徳の授業や読書活動を通して設定していく。
- ・キャリア教育の視点も盛り込んだ「生きる力」を育む講演会や外部講師との交流を今後とも継続する。
- ・「学び合う授業」のための基盤となる、生徒どうしの関係づくりをめざした人権学習をすすめる。

【重点目標2「知恵を育む」について】

- ・補充学習の内容や持ち方について、全校体制で工夫していく。
- ・学習意欲を向上させるための手立てとして、今の学びが将来に役立つことを実感できるような場面や、問題解決に取り組むような場面を積極的に取り入れていく。

【重点目標3「安全で健康な生活を送る」について】

- ・ネットの利用法や食生活等、規則正しい生活の習慣化をめざした家庭への働きかけを工夫する。

【重点目標4「“学び舎”をつくるための手段】

- ・問題解決能力を高める授業づくりの研修をより一層すすめる。
- ・小規模校のため、1つの校務分掌を1人が受け持っていることもあるが、ゆとりのある教育活動のためにも、職員間のOJTの推進を今後の課題としていきたい。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 塩浜中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の向上【知】	3
<p style="text-align: center;">主な方策 成果と課題</p>	<p><基礎的・基本的な力の定着><授業の工夫・改善><コミュニケーション能力の育成></p> <p>○少人数ということもあり、生徒の特性に応じた細やかな指導ができています。 ○「めあて」と「ふりかえり」の提示を行い、本時の帰着点を示したことで、生徒の授業への集中力を高めることができました。 ○質問日や補充学習日を設定し、学習の補充に努めることができました。 ○問題解決能力向上をめざした授業づくりで、授業のねらいや発問のしかたなどを意識して取り組むことができました。 ○ノートづくりやまとめがしやすいような板書を心がけ、学力に不安のある生徒もノートを写すことでふりかえりやすいよう意識することができました。 ○1年生で基礎的・基本的な力を定着させようと努めた。 ○読み、書き、聞き、話すことをバランスよく学べるよう工夫した。特に英語は話すことの楽しさを通して、自主学習を自ら進んでできるように配慮した。 ○グループで話し合う場面を設定し、コミュニケーション能力を育てる場としたい。 ●1年生で基礎をもっとしっかりとつけさせる。特に年度当初のサポートをもっと手厚くする必要があり。 ●「話す・聞く」領域における「論理的に話す」面の指導が行き届かなかった。 ●生徒が気づきや理解を深める場面を明確に設定した授業を確立していきたい。 ●生徒の考えを深めるために、話し合い活動がうまくできるように工夫したい。</p>	
重点目標 2	いのちを尊重する教育の創造【徳・体】	4
<p style="text-align: center;">主な方策 成果と課題</p>	<p><道徳・人権教育の充実><生き方を探るキャリア教育><豊かな人間性の育成> <性教育や食育等に関する学習の充実></p> <p>○道徳は昨年度に続き、生徒自身に考えさせる授業を意識して学年で取り組むことができた。生徒や学年の実態に合った教材を選び、指導することができている。 ○生徒は道徳の授業に対して、積極的に取り組むことができています。 ○道徳・人権教育の授業を通して、生徒の考えていること、人権意識を知ることができた。 ○人権講演会では毎年講師の方に生徒の心に残る講演をしていただき、教師にとっての学習の場にもなっている。 ○すべての教育活動に人権・道徳教育を位置付けて計画を立て、おおむね実践することができた。ゲストティーチャーを活用し、さまざまな視点からの人権について学習させることができた。人権集会・人権コンサート・各学年の命の授業など、生の声を聴くことで、生徒の心に響く学習ができた。各学年の人権学習もしっかり取り組み、生徒が自分自身を振り返り、自分の生活や行動を変えていきたいと考え、少しずつ行動に移せてきている。これらの学習を来年度につなげていきたい。 ○特に英語の学習では将来、国際社会で活躍できることを意識している。 ○本年度も性教育や食育、人権教育について、学校・学年で充実した取り組みができていた。 ●教材研究の時間の確保が難しい。人権学習、学校・学年行事や特活などと絡ませて、道徳的価値観を養っていくことが必要である。 ●教師（自分）の思いを語る、という道徳教育における核心的な要素が取り入れられなかった。道徳を中心に、より深く教材を研究し、教師自身が人間性を豊かにしていく必要がある。 ●グローバルな人材の育成が課題と考える。</p>	

重点目標 3	特別支援教育の充実	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p><校内支援体制の確立><個に応じた教育の実践></p> <p>○授業時間内に「特別支援委員会」を開催し、特別支援学級に在籍する生徒に対する支援はもちろんのこと、通常学級に在籍する生徒に対する支援を時間割に組み込んだ。場合によっては、ケース会議を開き、どのような支援が必要かを該当教員たちで考えた。それにより、個々の生徒の特性を考えた支援を行うことができていた。</p> <p>○定期的に校内支援委員会を開いて、生徒の情報交換ができた。情報共有することで一人で抱え込むことなく生徒を見守ることができた。</p> <p>○教員が個々の生徒の特性を把握できているのが小規模校の強みである。</p> <p>●交流授業で、周りの生徒との関わりや様子を伺うことができたが、支援学級での活動の様子や取り組みを把握しきれなかった。</p> <p>●支援ファイル、気づきシートについては、今後効果的な活用方法を考えていく必要がある。</p> <p>●通常学級籍において支援の必要な生徒の数が教員数に対して多く、支援につききれなかった。通常学級籍の支援生徒へのサポートの仕方は来年度以降考えていく必要がある。</p>	

重点目標 4	教師力の向上	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p><校内研修の充実><保幼小中学びの一体化><教育活動の創意・工夫></p> <p>○本年度の校内研修で「問題解決能力向上に向けた授業改善（四日市モデル）」に取り組んだ。互いの授業を参観し、「授業改善ができていたか」という観点で教科の枠を超えて意見交換を行うことができた。</p> <p>○四日市モデルという共通の目的意識をもち、研修に取り組むことができたことがよかった。</p> <p>○さまざまな研修会のたびに、実践につながる学びが得られた。特に他の教員の授業を参観することで、生徒への呼びかけ方やアプローチの仕方といった、机上では得られないテクニック等を参考にすることができた。</p> <p>○保幼小中学びの一体化の取り組みについては、中学校区の教員数が減少していく中、できる限り規模を縮小しないような「考えられた取り組み」となっている。校区の子どもたちの姿にあらわれてきている。</p> <p>○乗り入れ授業では、内容や準備物等の打ち合わせの時間が取れたので、当日の授業はスムーズに行えた。</p> <p>○プレゼンテーションや発表を通じて、人前で発言できることへの自信を持たせることを重視した。</p>	

重点目標 5	地域の信頼に応える	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p><学校自己評価・学校関係者評価の実施><情報の発信・受信><地域との連携・学習環境整備の推進></p> <p>○情報の発信・受信については学校アンケートでかなり高い評価になっている。</p> <p>○地域と連携して、防災学習や人権コンサート、地域の清掃活動等に取り組むことができた。</p> <p>○学校行事に対して、地域・保護者の参加が多い。</p> <p>○学習環境整備についても学校アンケートでは一定の成果があると言ってもよい。</p>	

2 改善方針

- ・コミュニケーション能力を育成するため、「論理的に話す」面の指導を行い、話し合い活動がうまくできるように工夫する。
- ・来年度も引き続き「問題解決能力向上に向けた授業改善（四日市モデル）」に取り組みながら、生徒の学力向上へつなげていく。
- ・人権学習、学校・学年行事や特活など、あらゆる機会にゲストティーチャーの活用を図るとともに、教師が自ら思いを語れるような道徳教育の取り組みを進める。
- ・支援ファイル、気づきシートの実質的に有効な活用方法を検討し、支援生徒へのサポートをより充実させる。
- ・保幼小中学びの一体化については、各校の規模縮小に向けて取り組みの精選を検討していく。
- ・引き続き校内研修を充実させ、教師力の向上を図る。
- ・情報の発信・受信を密にし、地域との連携・学習環境整備の推進を行う。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 山手中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	学力の定着と指導の充実（知）	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <p>◎「生徒同士が関わり合い、学び合いのある授業の創造」をテーマに、授業づくり、授業改善を進めてきた結果。普段の授業で、小グループで話し合ったり、問題を解決したり、生徒自らが積極的に授業に参加する姿が大変増えてきた。そのことにより、全国学調では国語Aで全国平均と同等、他は高い結果につながっている。</p> <p>◎昨年度よりあらゆる教育活動の場面においてキャリア教育の視点を取り入れるように全教職員で確認し合った。それぞれの活動が、将来社会に出たときに、どのように関連づいているのかを意識させて取り組ませるようにしてきた。一方で、3年生の進路説明会の冊子を1、2年生の教室に配布したり、学校HPに各高校のHPをリンクするなど、進路指導の充実を図ることができた。</p> <p>◎全体研修会や教科部会で、生徒や保護者に分かりやすく、生徒の学習意欲を高める評価について研修を深めた。教師、生徒のアンケート結果は高い評価であるものの、0.1ポイント下がってしまったが、保護者のアンケート結果は上がり、教師の結果との差が縮まった。</p> <p>【課題】</p> <p>●生徒や保護者アンケートの自由記述欄から、「わかる授業」への強い要望がある。更なる授業改善を進めていく必要がある。</p> <p>○わかる授業の充実</p> <p>【教師】学力の定着を図るため、指導内容の精選や授業改善・工夫をしている。《3.4(+0.1)》</p> <p>【生徒】先生たちは、授業をていねいに分かりやすく教えてくれる。《3.4(±0)》</p> <p>【保護者】生徒は、授業をていねいに分かりやすく教えてもらえると話している。《3.2(+0.2)》</p> <p>○進路指導の充実</p> <p>【教師】キャリア教育の視点を取り入れ、3年間を見通した進路指導や情報提供を行っている。《3.0(+0.1)》</p> <p>【生徒】将来の進路や職業について学習や体験をしたり、進路について考えたりしている。《3.3(±0)》</p> <p>【保護者】生徒は、将来の進路や職業について学習や体験をしたり、進路情報を知らせてもらったりしている。《3.1(+0.1)》</p> <p>○適切な評価</p> <p>【教師】学習等における生徒の能力や努力、学力を適切に評価している。《3.3(-0.1)》</p> <p>【生徒】先生たちは、学習の取り組みをきちんと評価してくれる。《3.3(-0.1)》</p> <p>【保護者】学校は、学習等における生徒の能力や努力、学力などを適切に評価している。《3.1(+0.1)》</p>	

重点目標 2	心の教育の推進（徳）	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <p>◎総合的な学習の時間での地域学習や職場体験学習、地域の老人会との交流やクリーン大作戦（地域清掃）、PTA主催の親子大縄跳び大会、デイハイク、また、地域の諸団体との連携による防災教室や安心安全教室、福祉体験教室、敬老会との交流など、体験を取り入れた特色ある教育課程が多くあり、生徒の情操面が健全に育まれている。</p> <p>◎規範意識が低いことがこれまでの本校の課題であったが、全国学調の「学校の規則を守っているか」の項目で全国平均を上回り、「あてはまる」と答えた生徒は68.1%（全国平均61.6%）で「どちらかといえばあてはまる」も含めると97.8%（94.7%）となり、生徒の規範意識が高くなってきている。</p> <p>◎全国学調の「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問で、「あてはまる」と答えた生徒は55.2%（全国平均48.4%）で「どちらかといえばあてはまる」も含めると88.8%（81.4%）となり、学校生活が充実していることが伺える。</p> <p>【課題】</p> <p>●命の大切さやルールなどの指導においては一定の成果を上げているものの、道徳や人権同和教育をさらに充実させる必要がある。</p> <p>○特色ある教育課程の編成</p> <p>【教師】特色ある教育課程となるよう、3Wやボランティア活動等の工夫に取り組んでいる。≪3.4（+0.1）≫</p> <p>【生徒】学校では、総合的な学習（地域学習や職場体験学習等）や行事等、意欲的に取り組める内容がよく行われている。≪3.3（-0.1）≫</p> <p>【保護者】生徒は、総合的な学習（地域学習や職場体験学習等）や行事等、意欲的に取り組んでいる。≪3.0（+0.1）≫</p> <p>○自立した社会性の育成</p> <p>【教師】社会のルールとともに、時や場所に応じた言動や挨拶について、様々な領域において指導している。≪3.3（+0.1）≫</p> <p>【生徒】いろいろな活動を通じて、社会のルールや言葉遣い、挨拶等について学んでいる。≪3.5（±0）≫</p> <p>【保護者】生徒は、社会のルールとともに、時や場所に応じた言動や挨拶について学んでいる。≪3.3（+0.1）≫</p> <p>○充実した学校生活</p> <p>【教師】生徒は、のびのびと学び、充実した学校生活を送っている。≪3.3（±0）≫</p> <p>【生徒】学校生活は楽しい。≪3.5（±0）≫</p> <p>【保護者】生徒は、学校生活を楽しく送っている。≪3.4（±0）≫</p> <p>○道徳や人権同和教育の充実</p> <p>【教師】「心の教育」の充実のため、道徳や人権・同和教育、行事の充実に努力している。≪2.6（-0.1）≫</p> <p>【生徒】命の大切さや社会のルール、人権教育等についてよく学習している。≪3.3（±0）≫</p> <p>【保護者】学校は、命の大切さや社会のルール、人権を大切に子どもを育てようとしている。≪3.2（+0.1）≫</p>	

重点目標 3	健康・安全教育の徹底	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <p>◎体力の向上・健康管理の生徒アンケートの結果が大変高かった。普段から「時間を守る」「授業を大切にする」「提出物を出す」「掃除をきちんと取り組む」などの生活習慣の確立に向けた指導とともに、体育科や家庭科の授業の成果と考える。また、部活動の取り組みも大いに関わっているものと考えられる。</p> <p>◎昨年度から市教育委員会に要望し、多くの箇所の修繕や改修工事を行った結果、り改善することができた箇所が多々あった。来年度以降も継続したい。</p> <p>【課題】</p> <p>●生徒の交通安全に対する意識やマナーは全体としては改善されつつあるものの、車の交通量の増加とともに、登下校中の自転車の事故は増えている傾向がある。(12月末現在16件)各学級での担任からの指導だけでなく、全校集会や地区別集会での指導、学校ホームページやすぐメールでの注意喚起を行ったが、引き続き、交通安全指導を行っていく必要がある。</p> <p>○体力の向上・健康管理</p> <p>【教師】健康で健全に生きるための心構えや知識を、生徒に指導している。《3. 2(今年度からの質問項目)》</p> <p>【生徒】健康で健全な生活を送ろうと心掛けている。《3. 6》</p> <p>【保護者】学校の教育活動は、生徒の健康で健全な生活習慣を身につけるのに、役立っている。《3. 3》</p> <p>○危機管理体制(安全対策)</p> <p>【教師】安全計画を立て、日常的な安全指導や不審者情報等に対処できる体制が整っている。《3. 2(+0. 2)》</p> <p>【生徒】災害や不審者等への心構えはできている。《3. 3(+0. 1)》</p> <p>【保護者】学校は、生徒が安心して学校生活を送れるよう安全に配慮している。《3. 3(±0)》</p> <p>○学校施設・設備の環境整備、有効活用</p> <p>【教師】学校の施設や設備は、学習環境として整備され、有効に活用されている。《2. 4(±0)》</p> <p>【生徒】学校の施設や設備は、活動をする上で使いやすいよう改善されている。《3. 0(+0. 1)》</p> <p>【保護者】学校の施設や設備は、活動をする上で使いやすいよう改善されている。《3. 3(+0. 4)》</p>	

重点目標 4	地域とともにある学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <p>◎総合的な学習の時間での地域学習や職場体験学習、地域の老人会との交流やクリーン大作戦(地域清掃)、PTA主催の親子大縄跳び大会、デイハイク、また、地域の諸団体との連携による防災教室や安心安全教室、福祉体験教室、敬老会との交流など、体験を取り入れた特色ある教育課程が多くあり、生徒の情操面が健全に育まれている。全国学調によると「自尊感情」に関わる質問において、本校の生徒は全国の平均値よりも3. 0~6. 5ポイント高い数値となっている。</p> <p>◎学校ホームページや通信でのお知らせや話題提供が評価されている。平成27年6月にリニューアルしてから、約1年半で18000件のアクセスがあった。今後も生徒の活動の様子や学校の取り組みを発信し、地域とともにある学校づくりを進めていく。</p> <p>○保護者や地域の人たちとの連携</p> <p>【教師】保護者や地域の人たちと連携し、「地域とともにある学校づくり」に取り組んでいる。《3. 2(-0. 1)》</p> <p>【生徒】総合的な学習やPTA行事(大縄大会やデイハイクなど)等を通じて、社会や地域の人たちと接する機会が増えてきている。《3. 3(+0. 1)》</p> <p>【保護者】学校は、保護者や地域に学校を公開し、生徒と地域の交流の機会をよく設けている。《3. 3(±0)》</p> <p>○情報発信の努力</p> <p>【教師】学校・学年・学級通信等で、学校の様子や活動等を保護者や地域によく伝えている。《3. 4(-0. 1)》</p> <p>【生徒】学校ホームページや学校通信等の内容は、学校の様子や行事の様子等が分かりやすい。《3. 3(+0. 1)》</p> <p>【保護者】学校は、ホームページや通信等で、学校の様子や行事等の連絡を分かりやすく伝えている。《3. 2(+0. 1)》</p>	

重点目標 5	教師の専門性と資質の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <p>◎校内研修に加えて、教育支援課の委託を受け、「問題解決能力向上のための授業づくり」を推進した。指導主事を年間のべ27人招聘し、教師の授業力向上、授業改善に努めた。2月に行った生活アンケートでは「学校で好きな授業がありますか」の質問に、「そう思う」と答えた生徒は66%、「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒は24%という結果からもある程度の成果が得られたことが分かる。【4月の全国学調によると全国平均値は「そう思う」が55%、「どちらかといえばそう思う」は25%であった。本校は10%程度高くなっている。】</p> <p>◎特別支援教育に関しても、教育支援課と連携し、校内の支援委員会を充実させた。特に不登校に関しては、適応指導教室と連絡を密に取り、不登校連携シートやQ-U調査結果をもとに、新たな不登校生徒を出さないよう取り組みを行った。</p> <p>【課題】</p> <p>●本年度、校務分掌の大幅な見直しを行った。各分掌が活性化した面も多くあったが、大幅改革による新たな組織としての1年目だったので、再度見直しを行い、役割分担の明確化、および連携を大切にする必要がある。</p> <p>○学校づくりビジョンの実現に向けた努力</p> <p>【教師】学校づくりビジョンの実現に向けて適切な取り組みを行なっている。《3. 3 (+0. 2)》</p> <p>【生徒】先生たちは、山手中を「よい学校」にするために頑張っている。《3. 4 (±0)》</p> <p>【保護者】学校の教育活動は、全体的に見て満足できる状態にある。《3. 3 (+0. 2)》</p>	

2 改善方針

- ・勤務時間縮減に向けての取り組み、意識改革を行う。
- ・時短につながるデータ管理方法を構築する。また、時短につながる備品の適正管理を継続する。
- ・道徳教育や人権教育のさらなる充実に向けての取り組みを行う。
- ・報告、連絡、相談が気軽に行える組織、雰囲気づくりを行う。
- ・常に主語が「学校」となるよう、指導面での統一を行う。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 富洲原中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	<p>聴き合い、学び合う関わりを大切にし、一人ひとりの生徒が意欲的に取り組み、響き合える授業をつくります。 <学びの協働体づくり、学び合う授業づくり> 教師の授業力の向上と生徒の学力向上、学びの一体化の充実</p>	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研修会を充実させ、教師の授業力の向上を図ります。 ○ 中学校区「学びの一体化」の取り組みの充実を図ります。 ○ 少人数教育、ティームティーチングを充実させ、生徒の学習意欲とともに学力の向上を図ります。 <p>・授業づくりに関して、ねらいふりかえりに研修会で議論の場を持つことができた。</p> <p>・校内アンケートでは、生徒・保護者とも「わかりやすい授業であるか」の問いに9割以上が満足と解答しており、3年連続の上昇である。それに対して「聴きあえるか」「教えあえるか」の問いは8割に留まっている。コの字隊形や小グループの取り組みは行っているものの、効果的な活用やその他の取り組みについても再考の必要がある。</p> <p>・年間を通じて行った乗り入れ授業の中で、小中の意見交流や生徒の情報共有、来年度に向けての改善案の相談をすることができた。</p>	
重点目標 2	<p>生徒と生徒、生徒と教師、教師と保護者が互いに聴き合い、気持ちを理解できる柔らかな人間関係を育てます。 <ケアリング、仲間づくり> 信頼関係の構築、自尊心、自己有用感の育成、心の豊かさの向上</p>	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全職員による教育相談、特別支援教育の充実を図ります。 ○ 温かみのある生徒指導に組み込み、問題行動の予防を図ります。 ○ 自分を大切に、命を尊重する人権教育や道徳教育、体験的活動の充実を図ります。 ○ 生徒会活動を通して、気持ちを理解し合える人間関係を育みます。 <p>・毎朝、生徒昇降口に職員が立ち、挨拶を通じて生徒の様子を確認する取り組みを行った。</p> <p>・校内アンケートでは、生徒・保護者とも「人権教育について満足している」と答えた割合が9割を超えた。ゲストティーチャーを招いての講演会など、いろいろな立場の人たちから生の声を聴かせてもらうことで、子どもたちの考える機会とすることができた。</p> <p>・各学年で総合的な学習の時間等を活用し、人権教育をはじめ様々な取り組みを行っているが、学年間のつながりが少なく、3年間を見通した効果的なものとなっていない。</p>	
重点目標 3	<p>学校内外で開かれた教育活動に取り組みます。 <開かれた学校づくり> 生徒・保護者・学校の相互理解</p>	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の教育活動を、いつでも誰にでも公開します。 ○ 地域(人材、歴史、文化、産業等)を学習の舞台として活用します。 ○ 生徒会活動の活性化を図り、自主活動、体験的活動を支援し充実させます。 ○ 部活動を通して、人間形成を図ります。 <p>・避難訓練や炊き出し訓練、防災行事等、地域とともに防災について学ぶ機会を多く持つことができています。</p> <p>・防災に関する取り組みにつながりが少なく、防災教育の充実へとつながっていない。</p> <p>・タイムリーなHPの更新や通信の発行が心かげることができた。保護者アンケートの結果も昨年に引き続き満足度の上昇がみられる。</p> <p>・週に一度のミーティングデーを設定し、部活内の方針や目標、問題について話し合う機会をつくることができた。しかし、まだ効果的な活用ができていない現状がある。</p>	

2 改善方針

- ・今後も継続して、授業における「ねらい」と「ふりかえり」について職員同士が議論する場を研修会で設定していく。
- ・ペア座席、小グループ、コの字隊形などを今後も活用しつつ、より効果的な活用方法について研究授業等で模索していく。
- ・「学び合い」「問題解決能力向上のための5つのプロセス（四日市モデル）」の研修もさらに進めていく。
- ・小中相互のメリットとなるような乗り入れ授業の形を検討していく。小学校から中学校への補充学習への参加等、新たな取り組みも進めていく。
- ・朝の挨拶を全職員で行っていく。
- ・人権集会等全校で行う学習を3年周期で考え、3年間の見通しを持った効果的な取り組みを考えていく。
- ・今後も地域とともに行う防災活動に積極的に参加していく。その際、事前指導や事後指導に力を入れ、効果的な地域との連携、学習の場となるようにしたい。
- ・部活動について、十分な休養日を確保するとともに、生徒の自立を促す学習の場としてミーティングデーを活用していく。

自己評価書

四日市市立 富田中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	(基盤)教職員の資質・能力の向上	4
主な方策 成果と課題	<p>(方策)個人及び全体研修方式による授業研究・分掌チームによる実施計画立案・自己評価の実施</p> <p>(指標1)教師力(自己研鑽に関わる自己評価) 75%以上 (76.8%) (指標2)教師力(授業づくりに関わる自己評価) 80%以上 (73.0%)</p> <p><指標1について>①正確な自己分析ができたか。(78.6%)、自己分析を基に、適切な目標設定ができたか。(75.0%)を合わせて76.8%の実績となった。日頃から意識的によりよい授業づくりにむけて振り返る機会が増えた結果、適切な自己分析ができたと考えられる。</p> <p><指標2について>③目的意識をもって研修にのぞんだか。(79.8%)④目標設定して臨んだ研修は課題解決に役立ったか。(79.8%)と高い結果となった。しかし、⑤研修で得た知識や技能を、実践で活用できた。(71.4%)と低く、まだまだ実践できる余地があると感じる奥には、実践で活用するアイデアを持っていると捉えている。取り組み内容については、計画的によりよく実施した。特に「『授業づくり』に向けた自分化宣言」と「教師相互授業参観」で「めあて」「ふりかえり」のある授業改善にも取り組み、教師も生徒も100%に近い数値で実施できた結果を得ている。また、10月6日の研究発表会で得た「富田中学校の課題」をふまえて「自分化宣言」に取り組み、学校全体で「ノート指導」に着目し、小学校で培われた力を中学校でさらに伸ばしていくイメージができた。しかし、「自分化宣言」で校内で取り組む方向(視点)を取り入れることができている職員もいる。校内・校区内(・四日市市内)で取り組む教育活動を理解し研修を進めていくことに、研修を通じて理解していただく必要がある。</p>	

重点目標 2	生きる力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>1 知（確かな学力）の向上</p> <p>①授業満足度 （方策）一人ひとりの学びの保障の取り組み （指標1）生徒アンケート（授業のわかりやすさ）85%以上（81%）</p> <p>②学力（知識・活用） （方策）授業における表現力と活用力を高める取り組み・組織的な学力底上げの取り組み・特別支援教育の充実 （指標2）到達度検査（2・3年生）得点率全国比 2年105以上（110.6） 3年100以上（95.4）</p> <p>③読書冊数 （方策）図書室・学級図書の実充・学年通信での本の紹介・家庭への啓発 （指標3）年間読書冊数（生徒一人あたり）15冊以上（17.1冊（1/10現在）） （指標4）生徒アンケート（本を読むのが好き）80%以上（77%）</p> <p><指標1について>「授業のわかりやすさ」については、問題解決能力の育成に向けて「一人では解決できない」問題を題材にする機会が増え、「教師説明型」の授業からの脱却もあったため目標が達成できなかったと考える。しかし、解決できない問題のままで終わらないよう展開の工夫をこれからもしていく必要がある。指導方法の改善として、推進事業の予算と学校づくりビジョンの予算で「ホワイトボード」を22台購入し、学びやすく、思考の過程が共有できる授業研究の成果がでてきた。</p> <p><指標2について>CRTについては学年固有の学力のばらつきがあるが、およそ2年間で100に達成できなかったことについて夏季研修会で研修を行ったが不十分な分析もあり、確かな分析・考察が必要である。基礎学力の定着として「富田中タイム」がある。昨年度から「縮約と感想」を週1回のペースで取り組んできた。小学校での「うつしまるくん」を使った「書く力」を伸ばす指導に引き続き、校区で取り組んできた。教師も生徒もよりよく継続している。「富中タイム」については、日課の都合で回数が確保できない状況もあるが、計画的にそれぞれの学年で進めている。しかし、今日の学校での授業内容について学習する取り組みにできるとよりよいという意見もある。年度末には、学校全体で意見集約をするとよい。</p> <p><指標3・4について>読書については、図書室が教室棟にないことが懸念されていたが図書室への来訪者は多い。しかし、平均にすると冊数が多いが、2極化が進んでおり朝の読書の時間でしか本を読んでいない生徒の存在も気になる。この生徒達の増加により、「読書が好き」な生徒が減っていると考える。「特別支援教育の充実」については、職員会議での情報共有、支援が必要な生徒への支援を年度途中で組み入れたりとしてきた。また、効果ある支援かない支援かを細目にチェックし有効な支援になるよう取り組んだ。</p> <p>2 徳（豊かな人間性）の向上</p> <p>①規範意識 （方策）生活規律の指導・学習マナーの指導 （指標1）生徒アンケート（学校の規則を守る）97%以上（97%）</p> <p>②人権を尊重し行動する力 （方策）学級活動・道徳教育の実充・人権弁論大会を核とする人権教育の実充 （指標2）生徒アンケート（どんな理由があっても、いじめはいけなと思う）100%（96%） （指標3）生徒アンケート（困っている人を助けようとする）95%以上（92%）</p> <p>③自己肯定感・自己有用感 （方策）職業体験学習・進路学習を核とするキャリア教育の実充・学校行事の実充 （指標1）生徒アンケート（自分のことを大切に感じている）85%（85%）</p> <p><指標1について>大半の生徒が自発的にルールを守り、落ちついた学校生活を送っている。今後も、校内生徒指導委員会及び生活委員会や学びの一体化「生指部会」と連携し、基本的な生活習慣の定着やルールの大切さについて考えさせる指導を進め、社会に通用する良識ある人間として成長させていけるよう取り組みを進めていく。</p> <p><指標2について>本来ならば100%が望まれる項目であるが、わずかでも加害者肯定の意識を持つ生徒がいる現状を重くとらえ、意識を変える取り組みを実施し、「いじめをしない、いじめを止める、いじめられても黙っていない、いじめは嫌いだ」という価値観を持ち、日常生活における道徳観の向上を目指すための取り組みを継続していきたい。</p> <p><指標3について>よりよい人間関係を築くためにも、「優しい気持ち」「助け合おうとする気持ち」を道徳教育や人権教育を中心に、教育活動全体で育む指導を充実させたい。</p>	

<指標4について>昨年度とは設問を変更したことにより、「ありのままの自分を大切に」と感じている生徒が多くみられる現状を知り得ることができた。今後も、「いいところ見つけ」や「みんなへのメッセージ」をはじめとして、各教科の授業や学級活動・生徒会活動・委員会活動・部活動など、日常の教育活動の中で、生徒一人ひとりが、「自尊感情」を高める取り組みを継続していきたい。

3 体（健康な心と体）の向上

①心の安定と体力

(方策) 保健体育の授業の充実・スクールカウンセラーとの連携・心の安定のため情報発信

(指標1) 新体力テスト得点偏差値47(女子)・47(男子)以上48(女子) 47(男子)]

(指標2) 出席率 96%以上 (95.3%)

②健康な生活習慣

(方策) 健康に関する啓発活動・生活リズム向上推進

(指標3) 生徒アンケート(朝食を毎日とっている) 90%以上 (82.8%)

(指標4) 遅刻率 1.0%以下 (0.78%)

(指標5) 睡眠時間8時間以上 20%以上 (18.6%)

<指標1について>新体力テスト得点偏差値と比べると男女とも下がったが、これは昨年度の3年生の数値が高かったためと考えられる。今年度、数値が低かった種目は立ち幅跳び・ハンドボール投げ・握力であった。高かった種目は短距離走であった。体育授業初めの10分間走・リズム体操、単元ごとの補助運動といった取り組みなどを行ってきたが、筋力を高める取り組みも必要である。

<指標2について>出席率は昨年度とほぼ変わらず、遅刻率については昨年度より下がった。出席率を下げているのは3年生の不登校生徒が多いことが一因である。遅刻率に関しては、不登校の生徒が登校できた時には遅刻してきたりするなど生徒は限定されており、非行等で遅刻してくる生徒はいない。また、SCなど様々な関係機関と密に連携を図っているが、家庭に協力を得ながら、担任を始め教員による粘り強い支援が必要であると考えられる。今年度もSCが毎週生徒指導委員会に参加し、面談や授業での生徒観察について情報交換することができた。

<指標3について>朝食を毎日とる生徒の割合は昨年度より少し下がったが、全く食べていない生徒は1年生0%、2年生0.8%、3年生4.2%であった。また、朝食の栄養バランスは取れていることがわかった。今年度も小学校栄養教諭による食育講座を全学年で実施した。また、保健委員会や保健だよりでの啓発も行ってきた。

<指標5について>睡眠時間8時間以上については昨年度よりは上がったが、携帯電話使用の時間が長い生徒もいるので、生徒会を中心に決めた携帯電話・スマートフォン使用のルールとともに睡眠の重要性の啓発も行っていかなければならない。

重点目標 3	開かれた学校	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>1 教育活動の公開 (方策)授業公開週間の実施・行事等の公開・通信の発行・お知らせボードの更新 (指標1)保護者質問紙(教育活動の公開)90%以上 (94%) (指標2)年間ホームページアクセス件数 30000件 (73504件(1/25現在))</p> <p>2 家庭・地域との連携 (方策)学習習慣の確立・授業への学習支援ボランティアの参画・読書習慣の確立・健康な生活習慣の確立 (指標3)保護者質問紙(地域・保護者との連携)90%以上 (93%)</p> <p><指標1について>文化祭・体育祭ともに天候に恵まれ、例年以上の来場者で、生徒が練習の成果を発揮し、精一杯の頑張りを見せたことが保護者に伝わり、満足度を上げる結果につながっているものと思われる。懇談会の開始時間を2学期から早めたことで、ゆとりを持って進めることができた。一方、授業公開週間の来校者を増やす具体的な手立てを打ち出していく必要がある。</p> <p><指標2について>システムを変更して閲覧しやすいようになったこと、管理職を中心に日々ホームページが更新され続け、最新の情報が提供されていること、学校だより・進路通信が定期的に発行され、教育活動の様子が保護者・関係者にまんべんなく伝えられた事などで、検索数の大きな伸びにつながっているものと思われる。</p> <p><指標3について>図書館支援、和楽器(箏)の学習支援に継続して取り組んでいただいた。職場体験学習においては、地域の多くの事業所の協力をいただく事ができた。地区防災訓練では、本年度も本校生徒を参加させる事ができた。PTA奉仕作業では、保護者・生徒・地域の方々が一体となって学校の環境整備に協力できた。炊き出し訓練も昨年に引き続き行われた。グラウンドゴルフでも多くの生徒が地域の方々と交流できた。また、吹奏楽部の地域行事への出張演奏も複数回実施など、地域との連携が順調に進んでいる。</p>	

重点目標 4	安心・安全な学習環境	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>1 危機管理体制の強化 (方策)各種危機管理マニュアルの整備と徹底・対応後のフィードバック (指標1)教職員アンケート(危機管理体制)90%以上 (86%)</p> <p>2 施設設備の保守点検の徹底 (方策)整理整頓・安全点検の日常化 (指標2)教職員アンケート(施設設備)90%以上 (92%)</p> <p>3 安全意識 (方策)避難訓練の実施・防災教室の実施・非行防止教室の実施・交通安全指導 (指標3)避難(整列・点呼)完了までの所要時間 地震・津波4分45秒、火災4分45秒以内(地震・津波4分00秒、火災4分20秒) (指標4)けがの発生件数 年間45件以内 (62件(1/20現在)) (指標5)不注意によるガラス破損件数 年間0件 (2件)</p> <p><指標1について>津波が発生した時の対策を練っていて、今年度も校舎内に避難をするとともに生徒自身の役割を知らせていく訓練を行った。しかし、目標が達成されなかったため次年度以降も全職員が自分のすべきことを把握し、生徒に的確な指示が出せるようにしておく必要がある。</p> <p><指標2について>校舎等に不備がないか細かく確認していただき、修繕していただいていることから目標を達成した。来年度の監査に向けて、整理整頓・施設設備の点検を徹底して行っていく。</p> <p><指標3について>避難訓練では計画に基づき生徒に指導をし、安全かつ迅速に避難をさせることで目標を達成した。今以上に、実際に災害が起きたときのような危機感を持たせながら訓練を行う必要がある。</p> <p><指標4について>部活動・授業中のけがの発生件数は依然として多く、目標は達成できなかった。</p> <p><指標5について>今まで以上にけがに留意させることや安全意識を高める指導が必要である。</p>	

2 改善方針

【基盤 教職員の資質・能力の向上 のために】

四日市市の推進事業の指定が終了するので、継続していく取り組みと、新たな取り組み等をはっきりと位置付けていく必要がある。校内で議論する必要と小学校と協働して進めていく必要があるので2月中に小学校と、3月中には校内で来年度について案を立てる。

【重点1 生きる力の向上 のために】

知（確かな学力）の向上について

- ・エビデンスの読み取り方が不確実な場合は、やり直しをしていくようチェック体制を強化する。
- ・家庭学習の確立のための「富中タイム」の内容ややり方については協議をしていく。
- ・読み聞かせなど多くの教師が取り組めるよう年度はじめに計画をたてておく。

徳（豊かな人間性）の向上について

- ・校内生徒指導委員会及び生活委員会や学びの一体化「生指部会」と連携し、生活目標や「学びのマナー」の検討を継続する。
- ・「いじめの定義や構造」についての授業を、4～5月中に全クラスで実施する。
- ・生徒一人一人が、「ありのままの自分が大切だ」と感じられるよう、機会を見つけて教師が声掛けをする。
- ・Q-U調査の結果から、クラスや個人に応じたエンカウンターを実施する。

体（健康な心と体）の向上について

- ・今年度と同様、体育授業初めのランニング・リズム体操を継続していく。
- ・特に運動への意欲を示せない生徒への運動の意義、楽しさの啓発や、低体力生徒の運動能力の底上げを図る。
- ・部活動においても技術練習以上に基礎体力向上を狙ったトレーニングを各部活動で今まで以上に取り入れる。
- ・来年度もSCに生徒指導委員会に参加してもらい、生徒の実態把握や情報交換を行い、生徒の心の安定に繋げたい。
- ・不登校傾向にある生徒へは、家庭に協力を得ながら、担任を中心に生徒への粘り強い支援を行っていく。
- ・朝食や生活リズムの指導についても、食育講座や保健委員会からの啓発などを通して生徒自ら改善していこうとする心を育てたい。
- ・睡眠時間に関しては、携帯電話・スマートフォン使用のルールを徹底していくとともに睡眠の重要性の啓発も行う。

【重点2 開かれた学校 について】

- ・文化祭は、来年度も土曜日開催とし、地域・保護者との交流の充実に努める。
- ・防災訓練・グラウンドゴルフ・古紙回収等、地域行事へのより積極的な参加を促したり、地域ボランティアや学生ボランティアの募集・活用、保護者や地域の方との交流・意見交換の場の設定を進め、地域に開かれた学校をめざす。
- ・職員のホームページ管理の技量を高め、全員が学期に1回（できれば数回）更新することにより、迅速かつ詳細な情報提供を心掛けて保護者の期待に応える。
- ・学校便り・進路通信・学級通信・学年通信などを活用し、教育活動の進捗状況や生徒の様子を積極的に発信する。事で、保護者の理解を深め、充実した教育活動に繋げる。

【重点3 安全・安心な学習環境 について】

危機管理体制については、次年度も地域と連絡を密にとりながら継続して訓練を行っていく。また、今年度の避難訓練での反省を生かし、マニュアルを改善していき、全職員の意識・判断力の向上につなげていく。

けがの件数・ガラスの破損件数で目標を達成できなかったことから、生徒の安全に対する意識を高める必要がある。そのためには、部活動や授業時は指導者がより安全に留意し、活動させるとともに生徒が落ち着いて学校生活を送れるように全職員で安全に対する意識を高めるよう指導していく必要があると考える。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 笹川中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	基本的な生活習慣の確立	3
主な方策 成果と課題	<p>①基本的な生活習慣の確立 ・笹川中学校の生徒としてより品格の向上をめざし、学校内外での身だしなみ・挨拶の励行・正しい言葉づかいなど基本的な生活習慣を確立することで、学習規律の確立へとつなげていく。</p> <p>②社会規範や集団生活のルールの育成 ・道徳の授業や様々な校外活動を通して、社会規範や集団生活のルールの育成を図る。</p> <p>③日常活動での指導の充実と非行や問題行動への適切な対応 ・生徒、保護者との心のつながりを大切にした暖かみのある生徒指導と、迅速な初動体制の確立と適切な対応を図りながら、日常の清掃活動・部活動・健康食育・交通安全指導の実施。</p> <p>(成果) ・「笹ルール」の提示と徹底により学習規律は確立されている。また、朝のあいさつ運動も生徒会を中心とした取り組みになっており、地域住民との交流にもなっている。 ・健康集会を開催し、生徒がやり遂げたという充足感を持たせることができた。</p> <p>(課題) ・生徒・保護者との心のつながりをさらに強化し、暖かみを持った生徒指導を心がけていくことが必要。 ・校外活動を通して、生徒の態度等での批判は少ない反面、応援の言葉がけも限られている。学校内だけでなく地域への働きかけも取り入れることを考えていく必要がある。</p>	

重点目標2	確かな学力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>①授業の充実、適切な評価の実施と説明 ・ICT機器を活用した授業、目あての提示とや振り返り活動を取り入れた授業を推進し、教師の授業力の向上を図る。また、指導と評価の一体化にも取り組んでいく。</p> <p>②学力補充 ・学ぶ喜びや楽しさを味わわせ、少人数指導やTT等の指導形態やペア学習、グループ学習等の学習形態など、生徒の実態や学習内容等に応じて適切に取り入れていくとともに、長期休業中や定期テスト前の学力補充の実施により、個に応じた指導を実施し、特に低学力生徒の基礎学力定着を図る。</p> <p>③学びの一体化の推進 ・「学びの一体化」の取り組みの中で、主体的に解決できる力の育成においても小学校と連携を密に図り、中1ギャップの解消をねらいとし、少人数教育の充実から、学ぶ姿勢の確立を図り、生徒の学習意欲と学力の向上をねらいとした学びの連携を図りたい。</p> <p>(成果) ・すべての教科でICT機器を導入した授業を行うことができた。 ・基礎学力の定着のための取り組みも着々と進み、ベーシック学習の効果を実感できるようになっている。 ・少人数授業、TT、ペア学習、グループ学習等の指導形態・学習形態を取り入れることにより、学力の向上を図ることができた。</p> <p>(課題) ・ICTの活用場面と活用の仕方をさらに追及していくことが必要である。 ・目あてや振り返り活動を取り入れた授業改善をさらに推進していく。 ・学びの一体化における乗り入れ授業の充実を図り、小中間の連携を今後も継続して深めていく。</p>	

重点目標 3	心を育てる教育の充実	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>①計画的な道徳・人権教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間づくりや体験学習の推進による計画的な道徳・人権教育の充実を図る。中学校区における人権フォーラムの実施（1年）、人権講演会（2年）の実施。また、自然体験学習（1年）、職業体験学習（2年）、修学旅行（3年）などの学習においては、総合的な学習の時間の指導内容として、心や命を大切にする教育内容を実践する。 <p>②心や命を大切にする教育の推進、不登校生徒支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 西日野にじ学園との交流学习（全校）や、福祉体験学習（1年）などを通して、人間としての生き方に関わる授業を実践する。毎学期の教育相談の機会、不登校生徒支援の充実にも力を注ぎ、日常の生徒指導や支援の中で信頼を築き、互いに話しやすい環境づくりの充実を図る。 <p>③仲間づくりの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業における「学び合い学習」をもとにした、学級集団づくり、学年集団づくりに取り組むとともに、各学年の体験学習においても仲間づくりを目標においた取り組みを実践する。 <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験活動や交流学习の場を利用し、効果的な仲間づくりを推進している。 教育相談を年間を通して行い、Q U調査等の資料も活用し計画的に実践している。 西日野にじ学園との交流を行うことで、生徒の内に潜む課題をつかむことができた。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳教育、人権教育については、道徳が教科化されるため、授業研究等の研修を進めることが必要。 仲間づくりを日常的に仕掛けていくことが必要であり、授業の中でも学び合いを中心とした取り組みを行っていく。 	

重点目標 4	教師の意識改革	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>①全教職員の共通理解と協働歩調の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 報告、連絡、相談を徹底し、早期に情報の共有を図り共通理解を得るとともに協働歩調を取る。 <p>②一人ひとりを大切にする指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 理念を一つとした多様な実践を心掛け、真の生徒理解に取り組むとともに、それに基づいた生徒指導を心がける。 <p>③プロの指導者としての自覚と自己研鑽の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 全員による授業公開に取り組み教科の専門性に磨きをかけながら、一方では、生徒と歩める人間性を身に付けるために自己研鑽に励む。 <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ほう・れん・そう」による早期の情報の共有は出来つつある。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 経験豊かなベテラン教職員の退職に伴い本校教職員の平均年齢も若返りつつある。今後、今日的な教育課題に対応できる人材の計画的な育成とベテラン教職員の持つ教育指導に関するノウハウの継承等が急務である。 教職員が学校組織の一員としてさらに考え行動し、新たな人事評価を評価の場として捉えるのではなく、改善の場として捉えることができるようになる。 	

重点目標 5	学校・家庭・地域で育てる教育の推進	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>①開かれた学校づくりの推進 授業公開週間、授業参観、学年懇談会を実施することにより、地域社会に対して開かれた学校を意識し、家庭や地域とともに生徒を育てていくという視点に立った学校づくりを推進する。</p> <p>②保護者・地域との連携の強化 定期的な家庭訪問や三者懇談会、PTA活動の実施により、保護者・地域社会との連携を強化する。</p> <p>③学校づくり協力者会議を開催し、学校関係者評価を実施し地域からの意見を取り上げながら教育計画の検討を行う。</p> <p>(成果) ・予定された授業公開、学年懇談会等を通して多くの保護者に来校してもらえた。土曜授業も含め、保護者の関心を集め、開かれた学校づくりには大きな効果が得られた。 ・学校だより・ホームページの作成・学級だより等でリアルタイムな情報発信に留意し、その都度情報を発信することができた。</p> <p>(課題) ・開かれた学校づくりのための教職員の意識の変革がさらに必要である。学年・学級間、及び教科間の教師の相互補完にとどまらず、様々な機会をとらえて、謙虚に保護者や地域の人々の声に耳を傾け、学校にかかわる人々の心情を理解していくこと。 ・生徒にも開かれた学校として教職員と生徒との心の触れ合いを大切にし、生徒一人ひとりが学校で学び活動することに、楽しさや生きがいを感じることができる学校づくりを進めていくこと。</p>	

2 改善方針

次年度は新たに学校づくりビジョンの策定年となるため、本校の現状を見据えつつ、以下にあげる内容について改善の方針としたい。

- ・学校づくりビジョンへの職員の意見を反映し、それぞれが学校経営に参画しているといった意識を持たせた上で、策定に臨みたい。また、学校づくり協力者会議への学校づくりビジョンの周知を徹底し、重点目標について個々の取り組みを強化させ、職場全体へのさらなる広がりを持たせたい。
- ・見えてきた強みと弱みについて教職員に理解させ、「継続する部分」「改善しなければならないところ」「伸長させたいところ」を明確にしたうえで取り組ませていく。
- ・中学校区の保幼小中の連携強化を図りながら、中学校区の教職員全員が責任をもって校区内のすべての児童生徒への指導に当たる覚悟の再確認を図る。
- ・特別支援教育の更なる充実と教育的な配慮を必要とする生徒の洗い出しを行い、一人ひとりに視点を当てた教育活動の充実を図る。また、関係諸機関との連携やSC, SSWを最大限に活用し生徒の教育活動に当たりたい。
- ・キャリア教育の充実を図り、生徒の自己肯定感・有用感、自尊感情の高揚、生徒と教師の共感性を大切にし、自己実現を目指す取り組みを図る。
- ・リアルタイムな情報発信を今後も継続し、強化していく。
- ・保護者、地域との連携を強化し、教職員の意識改革を同時に行いながら、更なる開かれた学校づくりに努めたい。

自己評価書

四日市市立 南中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	学力の定着と充実	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>☆確かな学力の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本の定着と問題解決能力の向上 ○コミュニケーション能力の育成を目指した授業づくり ○学習習慣の確立（授業規律・家庭学習等） ○南トレの充実と定着の工夫 ○全国学力・学習状況調査やC R Tの分析と活用の工夫 <p>☆指導方法の工夫と充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○わかる授業、楽しい授業づくりの工夫と展開 ○効果的な少人数教育の実践と工夫 ○特別支援教育の充実と実践 ○進路学習・補充学習の計画的な実施と定着 ○小集団活動を活用した学びあう授業の展開 ○適切な評価の実施と充実 ○学習意欲を育むICTを活用した教育の充実 <p>.....</p> <p>基礎・基本の定着を目指し、帰り学活前に10分間「南トレ」として1、2年生は漢字・計算・英単語、3年生は5教科の補充学習を行った。授業では、ICTやプリントの活用、小集団活動を取り入れ、学び合いによる問題解決能力、コミュニケーション力の育成を図った結果、授業に対して肯定的な評価は生徒92%、保護者96%であった。</p> <p>年度当初に授業計画や評価の観点、方法等をシラバスで明示し、三者懇談で、各教科担当からのコメントを伝えているため、適切な評価に関して肯定的な評価は生徒92%、保護者96%であった。</p> <p>進路指導に関して肯定的な評価が、生徒80%、保護者89%で、不安を抱いている生徒が20%と多い。1年で高校や職業調べ、2年で職業体験、3年で将来の進路選択を見据えた具体的な指導をし、「生きる力」につながるキャリア教育の視点から計画的な進路指導を充実させることで、生徒自らが進路選択できるようにする。</p> <p>不登校生徒については、保護者とともに個々の生徒に応じた対応を行い、外部機関とも連携して、一人ひとりの進路を保障していく。</p> <p>「わかる授業」を展開できるよう、十分な教材研究とともに、授業評価を確実にし、改善に向けて他の教員と情報交換やICTのより効果的な活用に努める。</p> <p>全国学力・学習状況調査で、家庭学習の充実が毎年本校の課題となっている。学力定着に向けて、宿題の出し方等の工夫をさらに行い、家庭学習の指導をしていく。</p>	

重点目標 2	心の教育の推進	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>☆心を育む教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生命や心を大切にする教育の推進 ○自尊感情を育む人権・同和教育の工夫と実践 ○体験活動等を取り入れた全領域での道徳教育の充実 ○いじめ・差別等を許さない仲間づくりの推進 ○Q-U等を活用した学級集団づくりの推進 <p>☆豊かな人間性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎日の生活の振り返りと改善 ○総合的な学習の時間の計画的な実践と推進 ○読書活動の活性化と充実 ○発達段階に応じたキャリア教育の推進 ○福祉体験や職場体験等の体験活動の充実 ○多文化共生教育の充実 <p>.....</p> <p>教師が業間も生徒のフロアに残り人間関係を構築することで、授業でも積極的に活動する生徒が増えている。一人ひとりの生徒を深く丁寧に見ていくための研修に取り組み、教師同士での活発な意見交換を行い生徒理解も深まった。また、学期ごとの教育相談で生徒の悩みや思いを知ることにより、いじめやトラブルの防止につながった。総合的な学習の時間に、1年生は外国人・障がい者の人権、部落問題、2年生は部落問題、3年生は子ども・女性の人権、部落問題に重点を置いて3年間を見通した人権学習を行っている。教育活動のあらゆる場面で心を育てることができてきた。その結果、心の教育の充実を感じる生徒は94%、保護者95%、教師92%と前年度より生徒、保護者、教師ともに評価が高くなった。</p> <p>いじめ・差別に関しては、対応を素早く行い、学級や学年集会で全体の問題として考えることにより、生徒に安心感を与えられたため、生徒93%、教師97%、保護者91%が肯定的な評価で、昨年度より生徒、保護者の評価が高くなった。しかし、教師と生徒の認識のずれがあるということは、生徒の不安を見逃さないように、アンテナをさらに高くし、一人ひとりの心の声に耳を傾け続ける必要がある。</p>	

重点目標 3	健康・安全教育の徹底	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ☆生徒指導・生徒理解の定着と充実 ○基本的生活習慣の定着と推進 ○生徒会活動及び各委員会活動の活性化と充実 ○清掃活動や部活動充実のための工夫と実践 ○心をつなぐ教育相談の充実 ○不登校生徒への支援の充実 ☆安全安心な学校環境づくり ○危機管理の徹底と緊急避難訓練の実施 ○施設、設備、器具の定期的な安全点検 ○セーフティ教室（防災・交通安全）の開催と充実 ○通学路、通学区域の安全点検と改善 ☆健康に留意し、健康管理を心がける生活習慣の確立 ○体力の向上を図る取り組みの充実 ○食育の取り組みの推進 ○学校保健の充実 <p>.....</p> <p>先生は親身になって接してくれると感じている生徒が94%なので、何らかの不安を感じている6%の生徒も含め、全ての生徒が、毎日楽しく前向きに学校生活を送ることを目指す必要がある。</p> <p>本校では、挨拶ができる環境を重視して指導し、PTAや生徒会でも挨拶運動を行ってきた結果、挨拶の実施に関する肯定的な評価は生徒90%、保護者95%とたいへん高くなった。どんな場面でも生徒一人ひとりが自主的に挨拶できるように、さらに教育活動を続けていく。</p> <p>本校の部活動についても、生徒91%、保護者91%が肯定的な評価であった。しかし、9%の生徒の意欲向上と前向きな活動に向けて、取り組むことが必要である。</p>	

重点目標 4	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ☆開かれた学校づくりの推進 ○学校公開・授業参観及びフリー参観等の実施 ○学校行事の充実と参加協力 ○地域・保護者等の要望意見の情報収集と改善 ○学校づくり協力者会議等との連携 ☆保護者・地域との連携の強化 ○家庭訪問の充実による信頼の構築 ○PTA活動・地域活動及び奉仕活動等の協力と推進 ○学年懇談会・学期末懇談会等の充実 ○地域資源を活用した教育の推進 ☆情報の発信 ○学校通信、学年・学級・保健だより等の発信と推進 ○ホームページ、すぐメール等の充実と活用 <p>.....</p> <p>本校の教育活動について、95%の保護者が満足できる状態だと回答している。しかし、生徒の12%が、学校が楽しくないと感じている。生徒が授業に前向きに取り組むことができるように研修を重ね、授業改善し、指導力向上が必要である。また、教育相談をさらに充実し、保護者やSC、外部機関とも連携することで、生徒が楽しくないと感じる要因を把握し、教職員が組織的に対応していく。本校の学校教育力の向上を図ると同時に、教育活動をさらに理解していただくために、学校通信やホームページ、フリー参観など積極的に情報の発信を行う。</p>	

重点目標 5	地域・家庭・保護者との信頼関係の確立	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>☆教師の意識改革と資質の向上（チーム南中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校づくりビジョンの実践、反省の具現化 ○学校自己評価の客観的考察と課題の克服 ○全職員の意思統一と共通実践の確立 ○各分掌の活性化・連携の推進 ○健康で意欲的に働ける職場づくり ○保幼小中高での学びの一体化 ☆自己研鑽の推進 <p>○全教員の授業公開・教科部会の実施</p> <p>○ICTを効果的に活用した教育活動の展開</p> <p>○各種研修会等への積極的な参加の推進と還流</p> <p>○教職経験に応じた教師力の向上</p> <p>○日常的なOJTの取り組み</p> <p>.....</p> <p>家庭と学校とが連携して日々の教育活動を進めていくことが大切だが、生徒の18%が学校・教師からの発信を保護者に伝えておらず、通信を配付する際には読み合わせや内容の要約、情報を伝えることの重要性等を指導する必要がある。開かれた学校づくりの推進では、肯定的な回答が教師の89%に対して保護者は96%となっている。平日や土曜授業でのフリー参観、合唱コンクール公開リハーサル、体育祭、文化祭に多くの保護者や地域の方々、地域の園児などの来校があった。また、部活動の一環としての地域行事やボランティア活動への参加も、本校教育活動の成果を見てもらう機会になった。今後とも更に地域とともにある学校として、地域に根差した学校づくりを進めていく。</p>	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関して、生徒指導委員会から具体的な取り組みを提案し、「チーム南中」として一枚岩になった指導を全校体制で推進していく。単に問題行動の件数減少を目標とするのではなく、問題行動に至った背景や個々の生徒の状況を把握したうえで取り組み、生徒の自治能力向上など、守りの生徒指導から攻めの生徒指導へと転換していく。 ・経験の浅い教員が更に増えていく見込みなので、日常的なOJTを学年や分掌、委員会などあらゆる場面で進めていく。 ・教職員同士の対話を重視し、多忙ながらも全教職員がやりがいを感じながら教育活動に取り組むことができるようにする。 ・授業改善、教師力向上に向けて各研修会に積極的に参加し、還流報告によって校内研修を活性化する。 ・全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックの結果を分析し、本校生徒の状況から全教職員で課題を確認して授業改善に活かしていく。学習が苦手な生徒にも、理解できることを一つでも多く増やし、学びをあきらめさせないことで学力の底上げを図る。

自己評価書

四日市市立 西陵中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	<p>確かな学力の定着</p> <p>①基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得</p> <p>②言語活動の充実と学び合いを大切にした授業づくりの推進</p> <p>③家庭学習に地道に取り組む姿勢の育成</p>	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>確かな学力の定着を実現するために、まずは学習規律の確立を徹底させた。さらに、「わかりやすい授業」「ICTの活用」「補充学習」「家庭学習の充実」「IT、少人数授業による指導」「課題解決学習の充実」「言語活動の充実」「共に学びあえる学級集団づくり」「学び合いの授業づくり」「個に応じた指導」を具体的方策として取り組んだ。</p> <p>その結果、本年度の学校アンケートの結果では、「わかる授業」に関する項目では、9割弱の生徒から肯定的な回答を得た。また、教師も全員が「授業改善・工夫を行っている」と回答している。</p> <p>校内研修の充実を図り、教師全員が、生徒がわかりやすい授業づくりや言語活動の充実を目指した。学習の「めあて」を明確に示し、小グループで活用をしながら授業を展開し、終わりには1時間の「ふりかえり」をするという授業を組み立てた。学力定着に向けて、小テストや補充学習、夏季休業中の学習会、チーム・ティーチングによる指導が、粘り強く学習する姿勢を身につけさせることに成果を上げている要因と考えられる。</p> <p>さらに、本年度は、1・2年で帰学活の前に補充学習の時間を設定し、国語・数学・英語の基礎学力の定着を図った。</p> <p>また、班などの小集団の活動を取り入れた授業の中で、生徒相互が関わるような場面を設定することで、互いの意見を交換したり、考えを深めたりする活動も成果を上げている要因と考えられる。</p> <p>家庭学習については、家庭での時間を確保するため、けじめある生活習慣を支援するとともに、宿題の内容やチェックの仕方等についての工夫を考えていく必要がある。</p>	
重点目標 2	<p>主体的に生きる力の育成</p> <p>①望ましい勤労観・職業観の育成</p> <p>②コミュニケーション能力の育成</p> <p>③自主活動の充実</p> <p>④社会性の育成</p>	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>主な具体的な方策は、「キャリア教育の充実」「追究活動、体験活動の充実」「話す聞く活動の重視」「学校行事、生徒会活動、学級活動の自主的運営」である。</p> <p>望ましい勤労観・職業観の育成を目指し、職業調べや職場体験学習、高校調べ等、1年生から段階的・系統的に取り組んだ。1・2年生でドリームマップを作成し、自分の生き方や自分の将来を考える上で、生徒が実感できる、有効な教育活動であった。また、2年生次の1学期に職場体験学習を実施したことにより、社会のルール、マナーを直接体験し、自己の生き方を考えるきっかけとなり、「社会性の育成」につながった。さらに、自然教室、修学旅行、社会見学といった体験学習では、集団で行動するときのルールやマナーを身につけさせた。</p> <p>また、「自主活動の充実」「社会性の育成」では、体育祭や文化祭等の行事において、生徒会や学級のリーダーの育成を進めながら生徒自らが主体的に取り組めるように進めた。体育祭では縦割り種目を取り入れ、生徒主体の活動がより進められた。</p> <p>生徒会・学級活動等、日常のあらゆる活動において、「話す聞く活動」を重視し、「コミュニケーション能力の育成」を図るなど、キャリア教育の視点で、取り組みをすすめた。また、「聞きとる力」の育成を目指して、「読み聞かせ」「週1回の聞き取りトレーニング」を実施した。</p> <p>その結果、学校自己評価アンケートの「キャリア教育の推進」に関する項目では、生徒は9割強、保護者は8割強の肯定的な回答を得た。今後、このキャリア教育の全体計画を基に、中学校区の小学校と具体的に連携して取り組んでいくことが課題である。</p>	

重点目標 3	<p>豊かな人間性の育成</p> <p>①豊かな心の育成</p> <p>②確かな人権意識の育成</p> <p>③文化・芸術的感性の育成</p>	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>主な具体的な方策は、「思いやりのある集団づくり」「生徒会、学年、学級活動の充実」「読書活動の推進」「道徳・人権教育の推進」「文化的行事の企画」である。</p> <p>学校自己評価アンケートの「道徳・人権教育の充実」「仲間づくり」に関する項目では、生徒は約9割、保護者は7割強の肯定的な回答を得た。</p> <p>「豊かな心の育成」のために、道徳の時間を要として、すべての領域・教育活動において道徳人権教育の充実を図った。また、「読書活動の推進」のために、朝10分の読書を大切に、教師も生徒と一緒に読書するよう心がけた。図書館司書によるブックトーク、図書館司書たよりを発行、図書館用掲示板を設置し、読んでもらいたい本の紹介、外部指導者による「読み聞かせ」を実施するなど、読書への興味・関心を高める取り組みを行った。</p> <p>「確かな人権意識の確立」に向けては、班・学級を集団の柱とし、常に仲間を意識した生活を指導した。また、授業でも言語活動・コミュニケーションを意識した授業づくりに取り組んだ。この取り組みは、重点目標2-②「コミュニケーション能力の育成」にもつながったと考える。</p> <p>「文化・芸術的感性の育成」では、文化祭において、劇団による演劇の鑑賞、文化部の活動、音楽科、美術科、英語科を中心とした教科指導等、事前指導、事後指導も含めて、生徒の情操面での育成に努めた。</p> <p>これからも日常生活で触れることのできない文化・芸術に触れる機会を計画的に設けていくことが必要である。</p>	

重点目標 4	<p>自己管理能力の育成</p> <p>①安全意識の向上</p> <p>②健康管理・体力づくり</p> <p>③規範意識の向上</p>	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>主な具体的な方策は、「安全意識の向上」「安全教育の充実」「健康管理・体力づくり」「授業規律の確立」「生徒指導の充実」である。</p> <p>学校自己評価アンケートの「危機管理体制」「生徒指導上の問題への対応」「教育相談」に関する項目では、生徒は8.5割、保護者は8割弱の肯定的な回答を得た。</p> <p>「安全意識の向上」「安全教育の充実」では、交通安全教室、全校での安全集会、地域別の安全集会、防災教室、安全パトロール等、安全教育の充実を図ってはいるものの、実態としては十分とはいえない。特に、交通ルール・マナーに関して、今後も粘り強く取り組みを行っていく必要がある。</p> <p>防災に関して、1学期は通常の避難訓練、3学期には緊急避難訓練を実施した。特に3学期に実施した、緊急避難訓練では、約3分で全生徒が避難を完了することができた。今後とも、繰り返し実施し、教師の動き、生徒の動きの検証を行い、マニュアルの改善を行っていく必要がある。</p> <p>「健康管理・体力づくり」は、保健体育科の授業、保健だより、部活動などを中心に進めることができた。学校自己評価アンケートの「部活動の充実」に関する項目では、生徒は9割弱、保護者は7割強の肯定的な回答を得た。</p> <p>「授業規律の確立」「生徒指導の充実」は、学期に1回、教育相談期間を設け、生徒の内面に迫る取り組みを行った。また、週に1回、運営委員会、生徒指導委員会、特別支援委員会（隔週）をそれぞれ開催し、学級や生徒の情報交換を行い、各委員会を有機的につなげ、支援が必要な生徒に対する方策の検討、問題行動に対する迅速な対応を行った。</p> <p>しかしながら、学校アンケートでは、「教育相談」「部活の充実」の項目の肯定的な評価が、他の項目と比較して低い現状にある。今後、支援を必要とする生徒への早期対処、問題行動の早期発見・早期解決や組織的に対応できる体制づくりに一層努力していく必要がある。</p>	

重点目標 5	教師力の向上 ①教職員の資質・能力の向上 ②情報活用能力の向上 ③校内研修の充実	3
主な方策 成果と課題	<p> 主な具体的な方策は、「教師力向上研修」「分掌組織の連携と組織力向上」「ICTの活用技術の向上」「授業の質の向上」である。 学校アンケートでは、全教師が「基礎・基本を明確にし、授業改善・工夫を行っている。」「学習の評価を適切に行っている。」と回答している。 教師力向上研修では、個人分析をもとにした、個人目標の設定を行った。その後、管理職からの助言や同僚との相互研鑽を行い、個人目標達成に向けて実践を積み重ねた。 わかりやすい授業を実現するために、話し合い活動を中心とした授業改善に向けて、校内研修を行った。校内研修では、講師を招聘し、活用技術の指導を受け、自分の授業に効果的に取り入れることを目標とし、職員全員の相互公開授業などを通し、全職員の資質の向上と授業改善に一層取り組んだ。また、教育アドバイザーを活用し、若手教員が研修を深める機会を設定し、授業の質の向上を図った。 職員全員の相互公開授業により、生徒の言語活動を大切にした授業づくりについて、教科を越えて、同僚との相互研鑽を深められた。今年度、授業の「ねらい」を明確にした授業改善に取り組めたことは、大きな成果である。 また、職員間で日常的に行われている、自身の授業改善に関する情報交換、生徒に関する情報交換等、職場内でのOJTも、学年、教科の枠を越えて活発に行われている。 しかしながら、授業や教師の対応に関して、厳しい意見をいただいていることも事実である。今後は、一層教職員の資質・能力の向上を目指した研修を実施し、年度途中に、教師自身や学年、各委員会の取り組みを学校づくりビジョンに照らし合わせるための研修を設定し、調整を図っていく必要がある。 </p>	

2 改善方針

<p> ☆ 「学校づくりビジョン」「重点目標及び具体的方策」の見直しを図る。 ○ 基礎学力の定着や個に応じた指導をさらに進めるため、少人数授業やチーム・ティーチング授業によるきめ細やかな指導を行う。 ○ 授業目標を明確にした生徒がわかりやすい授業を実現し、言語活動を充実させるための授業改善を進める。 ○ 指導法や評価について今後も追究し、授業の充実を図る。 ○ 教師力向上研修や公開授業などを通し、全職員の資質の向上と授業改善に一層取り組む。 ○ 職員の感性を磨き、生徒の心に寄り添った指導の確立をめざす。 ○ 小学校との連携を進め、共通理解を基盤とした、特別支援教育体制、生徒指導体制の確立をめざす。 ○ 教職員の人権意識を磨く研修をさらに進める。 ○ 危機管理意識を高め、生徒の事故の未然防止を図る指導体制の確立を目指す。 ○ 学校だよりや学年通信の定期的な発行、学校ホームページの更新等、情報発信を積極的に行っていく。 </p>

【様式1】

自己評価書

四日市市立 三滝中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	差別の現実から深く学ぶ人権学習の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○ 体験活動や実感を重視した学習の工夫</p> <ul style="list-style-type: none">・各学年、修学旅行や校外学習においてフィールドワークを取り入れたり、生徒の実態に応じた講演者を選定したりして、体感や実感を大切に学習を行ってきた。・同和問題を考える保護者懇談会は、保護者と生徒と一緒に講演を聴き、共に部落問題を考える場として学校の大切な教育活動の1つとして位置づけている。講演から、差別の現状や反差別の行動について、参加者は心に深く刻むことができた。講演会後の保護者懇談会は、同和問題を中心にあらゆる差別の現実や身近な人権問題について、参加者が、考えや意見を交流し学びあう良い場となっている。 <p>○ さまざまな人権課題についての学習の深化と工夫</p> <ul style="list-style-type: none">・各学年の人権学習では、部落問題を学習の中心に据え、生徒の実態を変容させようと教材を工夫したり、自分たちの身近な日常生活に潜む偏見や差別意識に注目し、資料提示を行ったりして学習内容を創造した。・映像を見たり、討議を重ねていく中で、生徒に人権問題について考えていくことの大切さや仲間がいることの大切さ、人と人がつながることの大切さについて感じさせることができた。 <p>○ 保護者・地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none">・PTA学級委員・同推委員合同学習会を年2回開催したり、各地区同和（人権）教育推進協議会主催の啓発地区懇談会や人権フェスタなどに教職員・保護者が参加することにより、自己啓発や他者啓発に努めることができた。・『一人暮らしの高齢者に色紙を送ろう』の取組みも定着し、地区社会福祉協議会と連携し地域の方々に親しまれた充実した活動となっている。	

重点目標 2	授業改善と小中連携（学びの一体化）の推進	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○ 学力向上システムMIITAKIの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習と授業との連携の意識を強化。授業の振り返りシートを作成。生徒同士のサポート体制を取り入れ、基礎学習で取組み、家庭学習で補完した。結果、授業のめあてが明確となり学習ポイントの定着につながった。教師の授業力向上に連動。 <p>○ 放課後補充学習「グッジョブ」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月曜日7限目に全校体制で補充学習を実施し、基礎学力向上に取り組んだ。生徒個人の学習相談時間も設定。効果あり。 <p>○ 問題解決的な学習を視点とした授業研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科研究授業を実施。 ・事後研修会では「問題解決の場を設定できたか」「主体的・協働的に課題解決をしていたか」などについて全体やグループで討議を行った。課題の設定、協働の在り方の工夫、について共有した。 <p>○ 相互参観授業週間の設定および日常からのフリー参観実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの授業を開き、見合い交流する体制づくりを日常に設定することで、授業改善の取組を進めた。 ・学期ごとに授業見合おう強化週間を設定。実践する側は、日常からの学びを具体的な実践として提案発表し、参観する側は、共通の参観視点、個人の目的意識やねらいをもって授業参観。相互授業改善・指導改善へとつなげる一連の体制ができた。 <p>○ 学びの環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習機会の拡大を意図して、少しレベルの高い問題に誰もが自由に参加・挑戦できるように学習交流コーナー（愛称「ちえのわ」コーナー）を1階ロビーに設置。問題は、定期的に更新し、生徒の学習意欲を喚起。 <p>○ 保護者・地域との連携、情報発信の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域住民、学校づくり協力者会議や保護司のメンバーを対象に年6回の授業公開を実施。事後懇談会を実施したり、個別アンケートに意見をいただいたりして、新たな気づきや刺激を受けることができた。基礎学力向上に向けて、学校独自の授業振り返りシートを作成。その取組の評価については、生徒・保護者へアンケート調査にて取りまとめて次年度へ改善を図る。 <p>○ キャリア教育（志授業・学びの一体化）の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区の小中学校3校に保育園・幼稚園の教職員を交え、年3回公開研究授業を実施。発達段階に応じた指導の在り方、保幼小中における共通な課題について討議を行った。 ・小学校5・6年生を対象に、英語（外国語教育）の乗り入れ授業実施。6年生対象中学校入門講座（10講座）を開催。中学生の夏季基礎学習講座に川島小、神前小の教員が参加。子どもへの関わり方や支援の仕方について共有する場とした。 ・年度末には中学校区内の幼小中校園の校園長と担当者が参加して、次年度の小中連携の方向性会議が持たれており、目指す方向を確認・共有するためのよい機会となっている。 	

重点目標 3	生徒指導・安全指導の充実	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○ 登下校指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝登校時に各学年から1, 2名の教員を出して正門で登校指導を実施。下校時には全教員で正門と危険箇所での指導。 ・生徒会・生活委員会を中心にした登校時のあいさつ運動週間やソフトボール部による木曜日の挨拶運動実施。生徒同士での交流を深めた。その結果、あいさつを返せる生徒の数が増えた。 ・放課後、正門での下校指導を毎日続け、「さようなら」と言葉をかけることにより、教員と生徒との距離も近くなった。今後も『誰もがあいさつのできる生徒に』という意識を持って生徒への指導にあたりたい。 <p>○ 学期に一度の定期的な教育相談と日常タイムリーな相談体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の悩みや話したいことを受け止められる場を大切に。結果、不登校やいじめ等の未然防止、早期発見、早期解決、再発防止につながっている。 <p>○ 日常の連絡ノート、個人ノートなどによる生徒と教師の信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生徒とのコミュニケーションツール、話すことが苦手な生徒への方策、タイムリーに思いを伝え合う手段の一つとして、また、危機管理ネットワークツールとして活用。クラブでの個人ノートも併用しており多角的多面的に取り組んでいる。 <p>○ 家庭訪問を通じた保護者・生徒との信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や生徒との信頼関係づくりを大切に。結果、不登校の生徒が学校へと登校するようになったり、別室登校ではあるが1日を過ごすことのできる生徒も出てきた。 <p>○ 自転車通学への見守り指導の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車による通学マナーは、本校の課題の1つである。 ・地域住民からの苦情は、自転車の乗り方に関するものが多く、自動車との交通事故件数も多い。 ・PTA委員との連携。地域の重点危険箇所に教師とPTAが立って登下校指導を行い対策をとったことで、他の場所での自転車の乗り方での苦情を減少につながった。交通事故件数も減少。 	

重点目標 4	学校評価および学校教育活動内容についての情報発信の推進	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○ 学校評価・学校教育活動の情報発信の工夫と強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・生徒からは、開かれた学校に関する設問に対して、概ね良好な評価。 ・学校HP更新や学校便りを通じた情報発信の継続 ・学級・学年・学校だよりに加え、同和教育、各種委員会等から通信を発行 ・学校づくり協力者会議への提示と意見聴取。 ・評価担当者を校務分掌に位置づけ、仕事や分析を学年ごとに割り振り、多くの人に分担して、関わりを持たせることで学校経営への参画を意識づけ。 ・学校評価アンケートについては、生徒・保護者・教職員の三者対象に行った。教育目標「人を大切に」への取り組みについては、保護者において、「十分・やや十分」ととらえている割合が83%を示し、概ね浸透。 ・学習面については、基礎基本の充実、学習形態等設問では、保護者評価の肯定的評価の割合が、教員・生徒評価よりやや低いことから一層の努力が必要。情報発信の工夫がさらに必要。生活面では基本的な生活習慣や社会生活上のルールの定着について、三者とも評価が概ね良好。学校生活は、落ち着きを見せ始めている。 ・教職員全体で共通理解を図り、生徒指導や教育相談に関する研修を企画し、生徒・保護者の思いに寄り添えるような体制作りにより努力していく必要がある。 <p>○ 学校公開の機会拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校公開週間を定期的設定。保護者・地域参観多数。 ・今年度は年に8回土曜授業（土曜活動を含む）を開催し。その都度講演会や学年の取り組み、クラブ活動を公開できたことも高評価。 ・体育大会や三滝祭では多くの参観者。アンケートでも行事については高評価。 	

2 改善方針

○ 人権・福祉・環境教育の充実

・人権教育・福祉教育の活動が定着。年々成果をあげている。特に、高齢者独居老人訪問については評価が高い。一層、全校生徒の取組として一人ひとりがより実感がわく取組となるよう生徒会や専門委員会活動の改善と充実を行う。

- ・魅力的・創造的な教材開発・実践の充実。
- ・さまざまな分野の方との生徒の交流体験の充実を図る。
- ・特別な教科道徳の研究を進める。

○ 落ち着いた学校生活環境の継続徹底

・充実した学校生活を送るためには落ち着いた生活環境を築く。

・相談体制・支援体制の充実。

・生徒と生徒、生徒と教師、教師と保護者の信頼関係の構築や集団づくり、生徒が主体となった学校生活の見直しなどを今後も意識づけて実践を重ねていく。

・クラス会議や生徒間の主体的な問題解決の取組を実践することで、自分たちの学校を自分たちで作る意識高揚につなげる。

○ 学力向上の取組・教科学習の充実

・生徒・保護者の肯定評価が一層高まるよう指導の充実を図る。

・学力向上システムM I T A K Iの実践。PDCAサイクルでの検証改善。

・効果的な個に応じた指導・少人数指導の研究。より行き届いた指導が生徒に行えるように、教職員自身が効果を実感できるよう研修。

・教員の授業スタイルや取り組む姿勢を見直し、授業実践研修を柱に研修を進める。

・基礎学力定着に向け、基礎学習タイム「グッジョブ」の効果的な活用や夏季休業中を利用した基礎学力補充の充実。

・家庭学習の定着に向けた効果的な教師の支援、学校で補助支援する取組の工夫。

・生徒がわかる喜びを持ち、社会につながる学びとなるよう意欲・関心を持って授業に臨めるような環境を整える。

○ 家庭や地域の信頼に応える学校づくり

・調査結果から「十分（やや十分を含む）」の割合が90%を越え、非常に高い。現状に満足せず、さらなる工夫と特色ある取組を実践していきたい。

・定期的な通信の発行及び学校HPの更新による情報発信の強化は責務。

・保護者地域との連携では、教師・生徒の参画・協働を進める。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 大池中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	豊かな人間性と健康な心身の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>1. つながる生徒集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室長、書記を中心とする学年議会により、自分たちでクラスや学年の課題を考えさえ、目標達成に力を入れさせることで全体をみた行動ができるようになった。 ・班長にも責任を持たせ、目標を持たせたことで班内での励ましの言葉をかけあえる関係が作れた。 ・学年集会の場で、室長にクラスの様子などを発表させることで、同学年の考えなどを知ることや理解が深まった。 ・班づくりなどを工夫することで、班長などが周囲の状況を見ながら、相手のことを考えて動ける生徒が育ってきているように思う。 <p>2. 生徒指導・教育相談の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談週間を計画的に設けたことで、生徒の理解が進んだ。一定の効果を上げている。 ・定期的な教育相談以外の時間確保が難しかった。また、月1回の特別支援・教育相談委員会で取り上げる生徒数が多いため、じっくりと対策を考えきれなかった。 ・生徒指導委員会を中心として、細かな情報共有ができた。問題行動が少なくなり、規範意識が高まってきている。 <p>3. 心の教育の充実と体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の充実により、自分の心を振り返る機会が増え、よりよい自分を作ろうと努力する姿が見られるようになった。道徳を中心とした心の教育をこのまま進めていくことが大切と考える。 ・毎週火、木は、部活動の朝練習において、学校として持久走を行い体力の向上を図っている。さらに、保健体育科はもちろん学校としての継続的な取り組みを進める必要がある。 <p>4. 自主活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各専門委員会は、活発な活動が計画され実行されているが、さらに生徒集会を開催するなど相互のかかわりで生活を改善させるような取り組みを行う必要がある。生徒の自主性を育むような仕掛けをしていきたい。 	

重点目標 2	学力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>1. つながる授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道徳の授業づくり」から生徒同士をつなげることを意識して取り組めた。また、県外研修の機会が増えたり、学年で指導案検討をしたりして、教師の力量アップにつながられた。そしてその成果は、生徒へも還元できたように感じる。 ・「めあて」「振り返り」については、生徒にも定着してきた。（四日市市全体の取り組みとして） <p>2. 確かな学力の定着・向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「トライやるタイム」の内容を授業で行う小テストの内容にしたり、繰り返し行うことで定着が図れた。 ・「音声トレーニング」「毎日の振り返り」などきめ細かい指導により、学習の意欲を高めることができています。 ・確かな学力の定着には、家庭の協力や家庭学習が大切であるが、トライやるも朝学校へ来てあわててやっている姿もあり、さらに進め方・教材を工夫する必要がある。 	

重点目標 3	地域とともにある学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>1. 地域資源を活かした学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御池沼沢の学習では、地域の方々の協力も得られ郷土の財産であることを認識できるよい機会となった。 ・今年度は、大池ウォッチングは行われなかったが、貴重な遺跡もある地域なので違う形で学べる機会があるとよい。 ・保育実習では、地域の幼児と触れ合うことで、自分が愛されて育てられた存在であることを知る良い機会となった。 ・「あがた」「三重」とも人権を考える機会があり、生徒会を中心とした発表を行い、地域の方々との交流もあり「人権」について考えるよい機会となった。 <p>2. 保護者・PTAとの連携による教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的なPTAによる交通安全指導（保護者の通学路点検、新入生の通学路指導など）により、「安全な登下校」についての意識が高まってきた。 ・PTA主催の「親子人権講座」では、人権落語によってたいへん身近な「人権問題」について考える機会を持てた。 <p>3. 信頼される学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新や学校たよりの定期的な発行により、保護者や地域の方にも好評であった。 	

重点目標 4	学校教育力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>1. 教師力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育について、全職員で取り組むことで、教師力の向上につながっている。また、公開授業を進めていくことで、授業者本人のみならず、参観者の力量もついてきた。 ・各分掌会議や研修などで、十分な話し合いがなされ、大池中をさらによくしていこうとする意識が向上した。 <p>2. 学びの一体化の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保、幼、小、中の公開授業を続けることで、研鑽をつむことができている。全体研のあとの話し合いの際、テーマを絞っていく必要がある。 ・保、幼、小、中の先生方が集まる夏休みの全体研（人権学習会）では、意見交換なども積極的にでき有意義なものとなった。 ・保、幼、小、中が一体となって、地域の子どもたちを育てる意識を持てるように改善していく必要がある。 <p>3. 学校組織の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢を超えて、学校運営などに意見交換ができる環境に近づいてきた。さらに、校務分掌などを見直しながら、月1回の定時退校日の意識を高め、総勤務時間の縮減などにも取り組んでいきたい。 	

2 改善方針

- ①地域とともにある学校の視点から、さらに積極的に学校を公開する。
- ②学びの一体化のねらいと方策を再確認し、11年間の子どもの成長を図るための機会とする。
- ③生徒指導において、不登校生徒に対する対応を充実させる。また、特別支援の必要な生徒への手立てを充実させる。（不登校・特別支援委員会の週1回の開催）
- ④生徒の家庭学習の定着を図るためのてだてを進めていく。（提出物の提出率を保護者にこまめに連絡するなど）補充学習は必要とを感じるが、「トライあるタイム」の進め方・教材を工夫し、生徒にとって意義のある時間とする。
- ⑤研修については、取組み内容を絞り込んだり軽重を付けたりして、ねらいを明確にして進めていく。ビジョンについても「特にこれ」というものに絞り込んで実践する。大規模校であるため、1つ1つのことをしっかりと振り返りを行い、次へつなげていく必要がある。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 朝明中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	豊かな心の育成～人権教育や豊かな人間性を育む教育	3
主な方策 成果と課題	<p><アンケート結果> 「道徳・人権教育の充実」3.5P(生徒)、3.0P(教職員) 「生徒指導上の問題への対応」3.4P(生徒)、3.2P(教職員) 「特色ある教育課程の編制」3.2P(生徒)、2.9P(教職員)</p> <p><成果> ○全学年で肯定メッセージに取り組み、自己肯定感を持てたり、他者を見つめようとしたりする生徒の姿が増えた。 ○校内の研修計画の重点の一つに、人権教育を位置づけたことで、各学年計画的に人権教育に取り組み、特に生徒の評価ポイントが高い。 ○キャリア教育、進路指導の一環として、社会や進路と学習の関わりについて考えさせる取組から、学習に対する姿勢が育ち、目的や目標を持って学ぶ姿がみられた。 ○各学年「総合的な学習の時間」を中心に体験活動を伴った地域理解・貢献学習に取り組んだことで、生徒たちに地域を愛し大切にすることを育むことができた。 ○ベル席の徹底、教室内の整理整頓、服装・頭髪等の身だしなみの指導の徹底をすることで基本的な生活習慣の確立に一定の成果をあげることができた。 ○休み時間等生徒と触れ合うことを大切に、全校体制で取り組むことができた。 ○不登校生徒が増加傾向にある中で、教育相談の機会を大切に捉え、カウンセリングマインドにのっとり悩み事を抱えている生徒に寄り添い適切な対応をとることができた。</p> <p><課題> ●登下校中の自転車通学のマナーが悪く交通ルールの徹底を図ることができなかった。 ●各学年とも人権教育推進計画に基づいて人権学習に取り組んだが、教育活動全体の中で実践する教員の意識が弱い。また、生徒は差別はしてはいけないこととわかっているが、日常の言動に結びつかないということもあった。 ●道徳教育については、どの学年も道徳の時間を計画的に運用できていない。 ●生徒指導について、指導方針は統一しているものの、教師の人数が多いため情報の共有に手間取ったり、指導方法が多少ずれたりすることがあった。 ●朝の読書には、ほぼ全員の生徒が取り組めるものの、図書館に足を運ぶ人数は多いとは言えない。</p>	

重点目標 2	確かな学力の育成～基礎基本の定着と自主的・主体的に学ぶ姿勢を育てる教育	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p><アンケート結果> 「わかる授業」3.4P(生徒)、3.2P(教職員) 「特色ある教育課程の編成」3.2P(生徒)、2.9P(教職員)</p> <p><成果> ○ICTを多くの教科で活用し、視覚的にもわかりやすく考える授業やコミュニケーションの楽しさや大切さを体感できる活動ができた。 ○帰り学活で基礎基本の反復練習を中心とした補充学習を実施し、生徒から一定の評価を得た。 ○全学年による長期休業中における学習会、定期テスト時の質問会を実施した。また、長期休業中の学習については小学校とも連携できた。 ○校内研修で、“学び合い”と基礎・基本の定着をテーマとして、具体的な取組を行ったが、日々の授業の中で、生徒たちによる“教え合い・学び合い”は定着し、一人一人の学習に対する姿勢がよくなり、少しずつではあるが基礎・基本の定着が図られている。また、本校版「授業の型」を意識した研修に取り組んだことで、教員の「学び合う」授業づくりの意識が定着し、意欲的に取り組む子どもの姿が多く見られるようになってきている。 ○学びの一体化では、学校公開時の授業参観や両小学校6年生を対象に乗入授業を行った。また、新1年生の春季休業中の課題についても、小学校と連携して生徒に取り組ませることができた。 ○コミュニティスクールの取組も2年目となり、全学年「総合的な学習の時間」を中心に、体験学習を取り入れた地域理解・地域貢献学習を充実させたことで、学ぶ意義を実感する生徒が増え、自主的・主体的に学ぶ姿勢が育まれた。</p> <p><課題> ●「学び合う」授業実践、補充学習や長期休業中の学習会の取組が、生徒の学力向上に十分結びついているかどうかの検証が不十分である。 ●主体的で対話的な気づきのある学びのある授業実践。 ●生徒の家庭学習に取り組む時間が全国平均と比べ少ない。 ●ICTの活用については、導入された電子黒板の台数と利用したい教科との数に差があり、豊かな活動に十分つなげられていない部分もある。 ●学びの一体化では、部会毎の系統図をより一層意識化して日常的な取組とする必要がある。</p>	

重点目標 3	健康な心身の育成～体力向上への指導の充実と健康的な生活習慣の形成～	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p><アンケート結果> 「充実した学校生活」3.6P(生徒)、3.1P(教職員) 「部活動の充実」3.4P(生徒)、3.5P(教職員)</p> <p><成果> ○体力面では、「体づくり」という観点で体育科を中心に、準備運動に「リズム体操」を取り入れたり、定期的に「持久走」を行ったりするなど、年間を通して継続的に取り組んでいる。その結果、新体力テストにおいて「瞬発力」、「俊敏性」、女子の「柔軟性」は、全国平均を上回っており一定の成果をあげている。 ○部活動においてはほとんどの生徒が熱心に取り組む、多数の部が県大会以上の大会に出場するなど素晴らしい成績を上げている。 ○学びの一体化の「体づくり部会」として保幼小中連携し、特に「持久力」「柔軟性」を子どもに身に付けさせるよう取り組めた。</p> <p><課題> ●生徒数のわりに施設が狭く生徒に十分な活動を保障することができない。 ●新体力テストにおいて、男子の「柔軟性」と、男女ともに「筋力」面で全国平均を下回っており、課題がある。</p>	

2 改善方針

<重点1>「和 豊かな心の育成」

①「人権教育」

子どもたちが普段の行動につながるよう、当事者との出会い等の体験的な学習を多く取り入れるなどして、子どもたちの生活に引き寄せて考えられるような指導を行っていききたい。

②「道徳教育」

平成31年度教科化に向けて来年度より評価も含め試行していくことから、各学年、年間計画の見直しをはかる中で、より実効性のある内容にしていく。

③「読書活動」

来年度は、市の読書推進教育の指定を受ける予定であり、各教科授業での活用を促進するなど、校内での推進はもちろん今後も地域の力も借りてより一層充実できるようにし、豊かな心の育成に努めたい。

④「安全教育」

地域関係者の協力を得たり、生徒の委員会活動ともリンクさせたりして、登校指導を行ってきたが、今後継続するとともに、関係機関と連携して交通安全教室を計画的に実施するなどより充実した安全指導を実施していききたい。

<重点2>「学 確かな学力の育成」

「学び合い」のイメージを確立するために、校内研修で、朝明中学校版「授業の型」を踏まえた授業改善にすべての教科で共通理解を図りながら取り組んできた。今年度は、特に小集団での「学び合い」の後の一斉授業で生徒同士の意見をつなぎ考えを深めさせる教員の役割やスキルについて取り組んできて一定の成果が得られた。来年度は、さらに指導要領の改訂も見据え、「主体的で対話的な気づきのある学びの創造」というテーマで、人権同和教育の視点での仲間づくりとともに研修に取り組む。また、来年度は家庭学習を定着させることにより重点的に取り組みたい。

<重点3>「鍛 健康な心身の育成」

「健やかな心身の育成」については、基盤となるのが保健体育の授業と部活動である。保健体育の授業においては、新体力テストを実施することで、自分の体力の現状を把握し、更に結果だけでなく結果から導かれた助言を参考に各自の目標に向け継続的に努力を促していくとともに、現在取り組んでいる「リズム体操」を徹底していききたい。「部活動」においては結果を追い求めることが個人の思いや仲間づくりの障害になりかねないので結果至上主義にならないように配慮していききたい。そして、学びの一体化の「体づくり部会」の系統図を全員で一層意識して取り組むものとする。

「心の健康」については、全校体制による日常の生徒との触れ合いを徹底するとともに、教育相談をはじめ生徒に寄り添う取組を継続する。またスクールカウンセラーや教育相談担当などチームを組み、見通しをたてて取り組む必要がある。自分の心体状況を正しく捉える力、原因を考え自分で対処していく力を育て、自分の心身をコントロールできるよう関係機関とも連携しながら取組を進めていききたい。

【様式1】

自 己 評 価 書

四日市市立 保々中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	『豊かな感性』の育成 平成28年度重点＜気持ちよくあいさつする生徒を育てる＞	3
主な方策 成果と課題	<p>○朝夕や授業開始・終了時のあいさつの指導、教師からの共感的姿勢による声かけ、「ありがとうのメッセージ」の取り組み等の場面において、「『自分からあいさつしている』という生徒の割合85%以上」をめざして取り組んだところ、その結果は、3年生78.9%、2年生89.9%、1年生87.8%、全体で85.8%となり、全学年平均では数値目標を達成することができた。</p> <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会として、あいさつ運動を週2回とあいさつ運動週間を設け、学校全体であいさつ運動を行う。 ・全校生徒にあいさつすることを啓発するために毎週水曜日と金曜日の登校時間、下校時間に正門前にて生徒会役員が登校する生徒に対してあいさつをする。 ・授業開始時や部活動での徹底した指導をする。 ・学校生活全体において、教師からの声かけを継続する。 <p>【成果】</p> <p>あいさつ運動への取り組みは、みんなであいさつを大切にしようとする流れを作り、一定の意識づけに成果を出している。また、廊下ですれ違いざまに大きな声で気持ちよくあいさつできる生徒も1年生を中心に増えてきている。</p> <p>【課題】</p> <p>気持ちのいいあいさつを「自分から」「顔を見て」「きこえるように」できない生徒はまだ多い。あいさつだけにとどまらず、授業や学級活動の中で、コミュニケーションをとる場面を大切にしていき、コミュニケーションをとってよかったなあ！と実感できるような経験をできる限り早い時期に持たせていくことが重要と考える。また、職場体験学習での学びや、授業前後のあいさつ等においても、引き続きあいさつにこだわって取り組みを継続する必要がある。さらに、進路指導とも絡めて、面接試験時や社会に出てから困ることのないよう指導していきたい。</p>	
重点目標 2	『やり切る態度』の育成 平成28年度重点＜ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓に取り組む生徒を育てる＞	3
主な方策 成果と課題	<p>○毎日の掃除や身の回りの整理・整頓の指導、行事や教科、部活動等の準備・片付け、「がんばってるねメッセージ」の取り組み等の場面において、「『ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓をしている』という生徒の割合85%以上」をめざして取り組んだところ、その結果は、3年生82.9%、2年生79.8%、1年生78.7%、全体80.4%となり、全学年平均では数値目標を達成することができなかった。</p> <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉委員会による身の回りの整理整頓の呼びかけ、意識したりする取り組み ・そうじチェックカードを用い、清掃前後のあいさつと評価の徹底。 ・朝学活や帰り学活などで、机の中やロッカーの整頓日等の設定、置き勉チェック、整理・整頓の呼びかけをし、時には一緒に片付けをする。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声かけをすると、進んでロッカーの整理をする。また、意識して、きれいに保つようになっている。 ・清掃は、声かけなどをしなくても、進んで取り組んでいた。大掃除は、時間が足りないうらい精一杯取り組んでいる。 ・自分たちの使ったもの、場所について掃除したり整えたりすることの必要性についてわかっており、積極的に掃除する生徒が増えた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声かけをしないとゴミを拾ったり整理・整頓をしない生徒はまだ多い。保護者への配布物や課題プリントをすぐに紛失してしまう生徒もいる。自主的な整理・整頓には積み重ねが大切であるので、今後も継続して指導していきたい。 ・ロッカーの整理整頓ができていない教室がある。ロッカーの上や床に物が散乱していたりする。その都度注意はしているが、継続しないので、整理整頓する意味も理解させていく必要がある。また、担任だけでなく全教師が意識をして教室を片付けさせる声掛けをしていく必要がある。 	

重点目標 3	『生きぬく基礎』の育成 平成28年度重点<きちんと時間や期限を守り、授業を大切にする生徒を育てる>	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○授業時間の始まりや提出物の指導、校外学習や部活動等での時間に関する指導等の場面において、「『時間や期限を守り、授業を大切にしている』という生徒の割合85%以上」を目指して取り組んだところ、その結果は、3年生90.8%、2年生87.5%、1年生81.3%、全体86.6%となり、全学年において数値目標を達成することができた。</p> <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業では教師が始業時間には教室にいる体制づくり。 ・生活委員や学級委員のベル席チェックや声かけなど、時間を守るための取り組み。 ・提出物を出すよう常に何度も呼びかけ、家庭の協力も得ること。 ・提出物の期限について、担当の先生方からこまめな連絡や声掛け。 ・保護者の協力も得ながら、遅れても提出させる粘り強い取り組み。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活委員の呼びかけで、早々と席に着ける生徒が増えてきた。また、生徒たちが互いに積極的にベル席を呼びかけているため、時間通りに授業が始められる。 ・授業は概ね落ち着いて受けている。 ・教員が提出物についても授業の開始についても指導することができているので、多くの生徒はできるようになっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の準備物に不足があり、授業開始後にロッカーへ取りに行くことがあること。 ・教師からの声かけをしないと、提出物を提出したかしていないかを把握できていない生徒がいること。 ・朝の打ち合わせが長引くことがあるため、朝の会に教師が遅れることがある。教師も遅刻しない体制を学校の体制として作っていく必要がある。 	
重点目標 4	「信頼される学校づくり」 平成28年度重点<生徒の保々地域への愛着の気持ちを高める>	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○各学年、教科、委員会等のボランティア活動や文化活動、ウォークラリー等の地域へ出向いて行う活動、各種防災・避難訓練やあいさつ運動・登校指導等の場面において、「『保々地区が好き』という生徒の割合90%以上」を目指して取り組んだところ、その結果は、3年生82.7%、2年生88.8%、1年生90.4%、全体で87.3%となり、全学年で数値目標を達成することができなかった。</p> <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事（ボランティア参加、地区文化祭への出品、地区内団体主催の標語やメッセージの取り組み等）への参加や、保幼少中のコラボ合唱、福祉体験活動、防災訓練への参加呼びかけなど、地域や中学校区としての取り組みを大切にしている。 ・保々地区を題材としたウォークラリーを通じた地域学習 ・プラザ学習や人権劇の参加 ・学校からの通信やホームページでの発信の継続 ・オープンデー（授業の公開、体育祭、文化祭等）や校外の奉仕活動などを通して、地域の人との交流の機会を持ち、自分たちが暮らす地域を誇りに思う気持ちを育てている。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標語を考えさせることで、保々地域のよさを振り返る機会となった。 ・ウォークラリーで保々地域の良いところを見つけたり、地域の方とのあいさつや会話を楽しんだりしたり、保々地区でも新しい発見や自然があり、住みやすい町であると感じたりすることで、愛着の気持ちは高まった。 ・福祉体験では地域の福祉施設にお世話になり、高齢者の方々と楽しく関わりながら学ぶことができたことで、「また行きたい」という生徒の声を持たせることができた。 ・地域とのつながりも深く、保幼小とのつながりも深く、生徒の地域への愛着の気持ちは高まってきている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラザ学習はまだまだ人数が少ない。プラザ学習で仲間づくりを進め、地域の方たちのお話もたくさん聞いて、この保々地域をもっと好きになり、守りたいという気持ちになる生徒が一人でも増えるよう取り組みを進めていく。 	

2 改善方針

- ・これまで重点的に取り組んできた「あいさつ」「そうじ」「時間」のさらなる徹底のため、それらの意義を確認し、自らよりよくしようとする自治能力の向上を育てる。また、実行状況の定期的な確認を行い、SSTなどを取り入れ楽しみながら自覚させたり必要性を促す取り組みを行うことで前向きな姿勢を育てていく。
- ・教育相談や学習指導、部活動指導などを通して、人間関係の構築や生活指導の充実を図る。
- ・教職員の指導方法の改善・統一をすすめ、情報を共有することで、「保々地区18年間（社会への）育ちのプログラム」に根ざした進路・学力保障のための取り組みをすすめる。
- ・学校内だけでなく、家庭や地域を巻き込んだ取り組みを積極的に進め、生徒のさらなる変容をめざす。

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 常磐中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着と指導の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>評価アンケート「先生はわかりやすく教えてくれる」に対する回答として、生徒は「あてはまる」と回答した割合が昨年度より増えたが、保護者については、やや減少する結果となった。また、興味関心に対する質問では、「あてはまる・ややあてはまる」と回答している生徒の割合が昨年度とほぼ同じで高く保っている。今後とも生徒の実態をしっかりと把握しつつ、生徒が興味・関心をもって取り組めるような授業づくりに日々努めていきたい。また、授業参観や学校公開日を設定したり、学校・学年通信などで学校での取り組みをタイムリーに家庭に伝えていったりしながら、保護者にもさらに納得していただける授業づくりに努めていきたい。</p> <p>「家庭学習の習慣化」については、「あてはまる・ややあてはまる」と答えた生徒の割合は昨年度一昨年度から徐々に上がっています。全国学力・学習状況の結果からも、宿題や予習については比較的できているものの、その日学習した内容の復習や自主的に勉強するといったことが十分でない様子が伺える。一昨年度より家庭学習の定着に向けた取り組みを進めてきたが、課題改善に大きくつながっていない現状がある。この課題の改善には学校と家庭が連携して取り組んでいく必要があると強く感じている。</p> <p>基礎学習の時間（Tokil10）では、「脳の活性化を図る」「基礎学力をつける」というねらいのもと、1・2年生では国（漢字が中心）、数（計算が中心）、英（単語が中心）、3年生では5教科の復習に取り組んできた。どの学年も真剣に取り組む様子が見られ、充実した10分間を過ごせている。今後も生徒の実態に応じて問題の検討を行いながら改善を重ね、学力の向上につなげていける取り組みにしたい。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>「人権の大切さについての学習」では、豊かな人間性の育成を目指して道徳や人権学習を取り組み、生徒、保護者方から昨年度とほぼ同じ良い評価をいただいた。豊かな人間性の育成を目指して道徳や人権学習に取り組み、正しく知り、気づき、自分の事として考え、行動していけるように学習内容を考えている。今年度も人権講演会を行い、宮武さんの話を通してこれまでの自分自身の行動を振り返り、自分にできることは何かを考えるよい機会になった。今後も生徒の実情を踏まえ人権学習に取り組んでいきたい。</p> <p>落ち着いた雰囲気で一日がスタートできるように、また、読書による心の広がりを持つように朝読書を行った。生徒は92%が、また保護者の90%が「朝読書に落ち着いて取り組んでいる。」と回答し成果が上がっている。教職員も教室・廊下で読書を共にすることで、静かで集中できる雰囲気・学校全体で読書をする雰囲気作りに努めた。また、読書本の質の向上を願い、図書室では、先生お勧めの本の紹介やその時季に応じた本が紹介された。また、国語の授業を中心に司書さんと連携しながら、生徒の読書が広がり進むような取り組みを進めていきたい。</p> <p>福祉体験・職業体験等、総合的な学習の時間に取り組んでいることに対して満足・効果があると評価されている。充実した体験活動であり、自分自身を見つめるよい機会になっている。また、保護者の関心も高く、地域の多くの方の協力をいただき、感謝している。今後も事前指導や事後指導を含めて、さらに充実した実りある取り組みにしていきたい。</p>	

重点目標 3	生徒指導・生徒理解の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>生活委員会の取り組みにおいて、「ベル席チェック」を行い、時間を守る意識は定着してきている。始業前に全員が着席をし、落ち着いて授業に臨むことができている。服装については朝の会や始業時に点検しており、入試にふさわしい服装ということで一貫して指導をしている。挨拶については、挨拶をする生徒は多いものの、相手に聞こえる大きな声であいさつをする生徒は減ってきている。授業では、開始と終わりの挨拶を大きな声で行うことなど挨拶について指導を続けていきたい。また、毎週木曜日「あいさつ運動」を行い、青少協のあいさつ運動と共に行っている。</p> <p>授業規律に関して、生徒の回答は9割以上が規律を守り、落ち着いて授業を受けることができている。しかし、年々改善傾向にあるものの、授業中うるさい生徒がいるという意見もある。各学年では、室長会や委員会で各クラスの現状を話し合い、クラスで落ち着いて授業を受けられるように話をしている。また、2, 3年生は早期から進路指導を行っていることで、生徒の学習意欲が向上し、授業に打ち込む姿勢がみられるようになった。</p> <p>生徒理解の充実として、改善傾向にあるものの、2割ほどの生徒が、相談しやすいという回答には至っていない。生徒の変容を見逃さないために、各学期に教育相談期間を設けている。しかし、生徒と教師との信頼関係が構築されていないと相談活動にはならない。担任は連絡ノートなどを通じ、コミュニケーションを図るとともに、担任だけではなく、教科担当、部活動顧問という側面からも生徒の変容を捉え、職員間のコミュニケーションを密にするよう心掛けている。スクールカウンセラーとも連携し、生徒の悩み、辛さに耳を傾けられるようにしている。</p>	

重点目標 4	教職員の指導力の向上と組織の活性化	3
主な方策 成果と課題	<p>本年度も、ペア・小グループ学習を指導法の一つとして「学力を定着・向上させるための授業づくり」を研修テーマとして取り組んできた。4人班の活用はもちろん、基本的・基礎的な知識及び技能の定着を中心とした教科指導の実践を通して確かな学力の向上を目指し、年間を通じた研修を行ってきた。</p> <p>また、校区全体の研修会においても、「学びあい」学習の取り組みをテーマとして授業研究会を行い、小中で一貫した取り組みをめざした。小学校で取り組んでいる学習環境の整備を取り入れ、各学年の廊下や掲示板に学習課題を掲示し、日常的に学習課題に触れる環境づくりをすすめた。また、昨年度よりは夏休みの中学校の補習授業の中に小学校の先生方にも入っていただき、中学校教師と一緒に学習指導に当たることができ、効果が上がった。今後も取り組みを継続する中で、学習意欲の喚起を図るよう努めていきたい。</p>	

重点目標 5	保護者・地域・関係機関との協働による学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>学校が保護者との信頼関係向上のため、学期ごとに学校公開日を設定したり、学年通信、学校通信の発行、学校ホームページの更新をしたりするなど、学校の様子や学年の近況をあらゆる機会を通じてタイムリーに発信している。アンケートでは「保護者の理解と協力を得ようとしている」の回答はほぼ9割となっている。学校ホームページのアクセス数も年々増えている。引き続き、保護者との信頼関係向上のため、授業参観や学期ごとの学校公開日、学年通信、学校通信の発行、学校ホームページの更新など、学校の様子や学年の近況をお知らせしていくことが大切である。また、気になる様子などは、個別の家庭訪問や電話連絡等により継続して取り組んでいきたいと思う。</p> <p>学校自己評価のアンケートでは、「常磐中学校をよりよくするための意見や要望」として、保護者の皆様から様々な分野で貴重な意見をいただいた。</p> <p>その中で、学習指導などいくつかのご意見をいただき、それらの内容について各分掌で検討してさらに研修を進めて、授業改善にも努め、より良い学校づくりをしていきたい。</p>	

2 改善方針

本校の生徒指導上の課題の根底には、授業が分からない、授業がおもしろくないなどがある。そこから、遅刻・早退・怠学による欠席などの問題行動につながることも過去に多くみられた。だからこそ、生徒をいかに授業に引きつけるかが重要である。基礎学力の定着、わかりやすい授業の実践により、生徒の学習意欲を向上させることが重要であり、それが生徒指導上の課題の改善につながるものと考ええる。

そのための手段の一つが「学び合い活動」である。「学びの一体化」の取り組みにより、4人班やペアなどの小集団学習による「学びあい」が定着してきた。互いに教えあい、学びあうといった仲間から学ぶ活動により、教室に居場所ができ、授業も落ち着いてきた。今後も小中で連携を取りながら、学習規律も含めた学びの一体化に努めていきたい。さらには、2・3年生の全ての数学授業で行った習熟度別少人数編制による授業形態を継続することも有効と考える。そのために、本校では、より多くの加配教員の活用が不可欠である。

また、家庭学習の定着化も重要である。宿題だけでなく、予習復習も大切な学習である。生徒自身が家庭学習の大切さを理解して、家庭での学習習慣が定着するように、家庭に協力を求めている。

補充学習として毎日行っている「Toki10」については、基礎的な計算や漢字力を身につけることで脳の活性化を図る目的があり今後も継続して取り組んでいくが、生徒が集中して取り組めるよう、内容・教科について検討し改善していく必要がある。

生徒指導で大切な「生徒理解の充実」について、引き続き重点的な取り組みとして継続していきたい。問題行動に対しては毅然とした厳しい態度で指導を行いつつ、そうなった原因や要因を見つめ、生徒の内面に迫れる指導を行う必要がある。PTAによって採択された「緊急アピール」に基づいた指導も、保護者の理解を得ながら続けていきたいと考えている。また、落ち着いている今だからこそ、現状に安心せず、教員全員が常に危機感を持ちながら、日々の教育活動を進めていくことが大切である。

部活動については、生徒指導上においても豊かな人間性を育成していく上でも重要な教育活動の一つであると考えている。多くの生徒が熱心に活動しており、どのクラブも日頃の練習の成果を発揮し好成績につながっている。しかし、長時間勤務の問題もあり、部活動のあり方や指導方針、活動計画などを検討して、有意義な教育活動としていきたい。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 西笹川中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	「毎日登校」の取組+「あいさつ・掃除・時間」の取組+多文化共生教育の取組	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(1)「1年間の欠席日数10日未満」の生徒の割合を増やすことを目指して、生徒一人一人の自己肯定感や自尊感情を高めるとともに、将来の夢や目標の実現に向けて、見通しをもって主体的に取り組み力を育む指導を重点的に行った。</p> <p>このような取り組みを行ったところ、昨年度よりは改善されたものの、目標とした数値には及ばなかった。まだまだ、学校の取り組みが不十分であったり、できるだけ学校を休まない（休ませない）という意識が生徒、保護者に浸透していなかったりするためであると思われる。来年度も継続的な取り組みが必要である。</p> <p>(2)『気持ちのよいあいさつをしている』『ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓をしている』『きちんと時間や期限を守っている』という生徒の割合、各90%以上を目指して、教科授業、掃除・係活動、委員会活動、学校・学年行事等のさまざまな場面で意義や方法・仕方を丁寧に指導し、「できる」「できた」体験、「ほめられた」「認められた」経験を積ませる指導を行った。</p> <p>この結果、生徒アンケートにおける肯定評価の割合（4「そう思う」と3「だいたいそう思う」を合わせた回答の割合）は各82%、87%、88%となった。3年間継続してきた取り組みであり、昨年度の目標数値を少し上げたものの、目標とした数値には少し及ばなかった。「あいさつ」「掃除」「時間」については、キャリア教育の視点から重要な取り組みであり、来年度以降も継続したい。</p> <p>(3)『自分は、国籍・文化・ことば等に違いがある友だちとも、お互いに認め合いながら共に生きていきたい』という生徒の割合90%以上を目指して、多文化共生サークルによる取り組み、各学年での総合的な学習の時間や道徳等での取り組み、各教科の授業、地域活動への積極的な参加など、全校をあげて取り組んだ。</p> <p>この結果、生徒アンケートにおける肯定評価の割合は98%となり、目標を達成することができた。外国につながる生徒が全校生徒の約30%を占めている本校の状況を「強み」「チャンス」ととらえ、今後、四日市市や日本全体の国際化が進展する中で、本校が他のモデルになりうるように今後も多文化共生教育の充実を図る必要がある。</p>	
重点目標2	確かな学力と社会への参画力の育成 ～個に応じた学習とキャリア教育の推進～	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(1)確かな学力の育成</p> <p>学校評価アンケートにおける生徒の肯定評価の割合は95%となり、「本市小中学校平均」（平成27年度全国学力・学習状況調査の本市全小6中3の平均値：四日市市教育委員会『四日市市学校教育白書』による）の78.6%より16ポイント高い結果となった。教師の肯定評価の割合も94%と高く、外国につながる生徒を意識したわかりやすい授業の成果ともいえる。保護者の肯定評価の割合は80%とそれほど高くなく、今後は学校の具体的な取り組みと成果について、より丁寧な説明が必要である。</p> <p>(2)個に応じた指導（日本語指導・支援、特別支援教育）の充実</p> <p>学校評価アンケートにおける生徒の肯定評価の割合は94%と高く、教師の肯定評価の割合も88%とかなり高い。これは外国につながる生徒や特別な支援を必要とする生徒を意識した授業や取り組みの成果ともいえる。ただし、保護者の肯定評価の割合は81%とそれほど高くなく、個に応じた指導についても、今後、学校からの丁寧な説明が必要である。</p> <p>(3)キャリア教育の充実</p> <p>学校評価アンケートにおける生徒の肯定評価の割合は82%となり、「本市中学校平均」の70.0%（本市設問：「将来の夢や目標をもっている」、本校設問：「自分は、将来の夢や目標があり、その実現に向けて自分なりの努力をしている」）より12ポイント高い結果となった。教師の肯定評価の割合も91%と高く、キャリア教育が充実してきたともいえる。ただし、保護者の肯定評価の割合は74%にとどまっており、今後は家庭との連携を図り、「将来の夢や目標」「将来就きたい職業や今後の進路」「希望の進路の実現に向けた具体的な努力」「職場体験学習や修学旅行での企業訪問」などについて家庭でも話し合ってもらい必要がある。</p>	

重点目標 3	豊かな心と「ともに生きる力」の育成～多文化共生教育の推進とコミュニケーション能力の育成～	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 多文化共生教育の推進 学校評価アンケートにおける生徒の肯定評価の割合は98%と高く、教師の肯定評価の割合も100%となっている。一方、保護者の肯定評価の割合は84%とそれほど高くない。本校は外国につながる生徒が全校生徒の約30%を占めており、全教科・全領域において、「多文化共生」を基盤とした教育活動を展開することが重要である。この点について、再度、教員間の共通理解を図るとともに、中学校3年間を見通した系統的なカリキュラムを設定することも必要である。また、保護者等に対しても、本校の具体的な取り組み、成果と課題等について丁寧に説明していく必要がある。</p> <p>(2) 道徳教育及び人権教育の充実 学校評価アンケートにおける生徒の肯定評価の割合は98%となり、「本市中学校平均」の93.3%よりも数ポイント高い結果となった（設問：「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」）。また、保護者の肯定評価の割合も87%と一定高い。これらに対して、教師の肯定評価の割合は65%にとどまっている。今後は、道徳や人権学習の系統性や3年間のカリキュラムについて見直し、充実を図る必要がある。</p> <p>(3) 生徒会、学級活動、学校行事、部活動の充実 学校評価アンケートにおける生徒の肯定評価の割合は94%となり、「本市中学校平均」の94.2%とほぼ同じ結果となった（設問：「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」）。保護者や教師の肯定評価の割合も90%程度でかなり高い結果となった。実際、体育祭や文化祭、修学旅行や自然教室、職場体験学習等の諸行事、部活動等において、どの学年の生徒も大変意欲的に取り組んでいる。その中で、生徒たちは中学生として必要な自主性、協力性、責任感、ねばり強さ、公共心などを徐々に身に付けてきていると思われる。</p>	

重点目標 4	健やかな心身の育成 ～心身の健康増進と体力の向上～	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 生徒指導の充実 学校評価アンケートにおける生徒の肯定評価の割合は98%となり、「本市中学校平均」の95.3%よりも数ポイント高い結果となった（設問：「自分は、学校のきまり（規則）を守って生活している」）。保護者や教師の肯定評価の割合も90%を越えており、10項目の中で最も肯定回答の割合が高いものとなった。実際、生徒は大変落ち着いて学校生活を送っており、学力や学校行事等の他領域でも好結果が期待される。今後もこのよい雰囲気継続したい。</p> <p>(2) 教育相談の充実 学校評価アンケートにおける生徒、保護者、教員の肯定的な回答率は各72%、84%、74%となり、他の項目に比較して、三者ともに肯定回答の割合が低い結果となった。1、2学期に約1か月の教育相談期間を設定して取り組んできたが、十分な時間が確保できていない面がある。生徒は思春期を迎え、多くの悩みや心配を抱えており、効率的、効果的な教育相談の在り方、方法等について検討が必要である。</p> <p>(3) 心と体の健康教育の推進 学校評価アンケートにおける生徒の肯定評価の割合は76%とやや低い結果となった。毎日の規則正しい生活が十分できていない原因ははっきりしないが、本校生徒は、スマホ、ケータイの所持率やネット依存率が市内中学生よりやや高いという調査結果もある。スマホ・ケータイ安全教室を継続的に実施しているが、健康面からの指導も必要であり、家庭との連携が特に重要である。</p>	

重点目標5	地域とともにある学校づくり	3
主な方策	<p>(1) 地域、保護者との連携（情報の発信と収集、地域行事への参加） 学校評価アンケートにおける保護者、教師の肯定評価の割合は一定高いが、生徒の肯定評価の割合は71%とやや低い結果となった。これは、設問にもよる（「自分は、笹川地区のことや地区の行事などに関心がある」）が、今後は地域とともにある学校づくりを進め、「笹川地区が好き」「笹川地区に住みたい」と思う生徒を増やしていきたいと考えている。</p>	
成果と課題	<p>(2) 学校教育力の向上 職員の仕事の効率化を図り、生徒との関わりの中で教師のやりがい満足度を高めるとともに、過重労働解消の取り組みを推進する必要がある。</p> <p>(3) 西笹中校区 学びの一体化の推進 学びの一体化を進めることで西笹中校区6校園の連携をさらに強める必要がある。</p>	

2 改善方針

<p>本校の中心課題である多文化共生教育、外国人生徒教育に関わって、「学力の定着・向上のためのJSL教科指導型日本語指導によるわかりやすい授業づくりの取り組み」と「外国人生徒のキャリア形成とともに、すべての生徒が将来に希望を持ち、目標実現に向けて意欲的に学習に取り組むことを目指したキャリア教育」について、今後も必要な改善を図りながら継続的に取り組むことが必要である。</p> <p>また、多文化共生学習、人権学習、キャリア学習について、内容の充実及び3年間を見通したカリキュラムの系統化を図ることで、より効果的な指導を行う必要がある。</p>
--

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 三重平中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	① 進路保障「確かな学力の定着」「学び続ける力」「忍耐力」の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的な補充学習（ナビ学習） ・5分間走 ・小テスト、ドリル等の継続的な取り組み。 ・毎日の授業での「めあて」「振り返り」。 ・学力向上タイムやステップアップノートの取り組みで、学び続ける力や忍耐力が定着しつつある。 ・TTにより細かな指導や声掛けをすることや生徒の状況の把握もよりできるようになった。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた課題については取り組めるが、自ら課題を見つけたり、解決方法を探すという点は弱い。 ・ステップアップノートが主体的な取り組みまでは行けていない。書けない生徒への指示の明確化 ・問題解決能力を高めるための授業計画などが、十分に高まっていない。また、それに必要な研修もさらに必要である。 	
重点目標 2	② 絆づくり「豊かな人間性」「コミュニケーション力」の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループの学習を通しての仲間づくり。 ・「平っ子タイム」「平っ子スタイル」の充実。 ・SSTの定着や4人組による学習形態など、関わりやコミュニケーション力は徐々に高まっている。 ・道徳は、生徒の実態に応じた課題を精選し、生徒が主体的に考える機会になった。 ・生徒指導体制の整備が進み、教職員間で共通理解が図れた。また、関係機関とも連携できた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話を聴く」態度の育成、「ありがとう」「お願いします」「どうぞ」等の生徒同士でもお互いに、自然に言い合えるようにする点で、重視するポイントが学年間で違うところがある。 ・普段の授業で、平っ子タイムのルールが十分活かされていない。平っ子タイムは月曜日が適切なのか考える必要がある。 ・学校全体で道徳、キャリア教育の全体計画を立てて取り組む。 	
重点目標 3	③ 保護者・地域との協働地域資源を活かした、地域とともにある学校づくり	4
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山保全、三世代交流フェスタ等の活動への参加。 ・炊き出し訓練。 ・子ども教室、学習ボランティア。 ・コミュニティースクール。 ・防災教室、子ども教室、漢字検定の取り組み、平ウォーカ等効果的である。 ・3年生の選択総合は有効である。 ・地域子ども教室の継続的な実践により、生徒の学力保障を行い、保護司や主任児童委員の方などと生徒の家庭環境や地域の情報共有が素早くできている。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動単位での参加が多く、生徒の意志でない参加が多い。生徒の意志で参加するケースは少ない。 ・家庭の教育力の向上に向けた取り組みや呼びかけ活動など。 	

重点目標 4	④ 学校教育力の向上使命感と情熱ある志の高い教職員集団の構築	4
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々のOJT研修。 ・職員間のコミュニケーションの充実。 ・学年内でOJTを進めている。 ・授業公開を気軽に見ることができ、授業づくりなどへの参考になった。 ・SC、SSWとの連携を密にして、ケース会議や教育相談を実施している。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使命感や情熱、志を高める方法は。 ・県外研修に出やすい体制作りをすること。 ・保護者、地域、関係機関との連携づくりを進め、組織的な体制を構築する。 ・OJTを推進する。ミニ研修会など 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間のコミュニケーションを充実させる。 ・話し合いや相談はできるが、深く考えたり、議論をすることに課題が残るので、教科の授業の中にその時間を設けて訓練していく。 ・会議の短縮化を図り、子どもと接する時間を増やす。 ・SCを講師に招いての小中合同研修会などで、教員の共通理解を深める。 ・教科担当者と担任とのコミュニケーションをもっと図る。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 羽津中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○キャリア教育の視点を大切に学習の推進 一昨年度からキャリア教育の視点を軸とし社会的・職業的自立のための4つの力を明記し、つけさせたい力を意識して教科活動、特別活動等に取り組んだ。研究授業、各活動の目標においても、キャリア教育でつけさせたい4つの力を明記し、それを意識し活動を展開してきた。しかし、総合的な学習の時間でキャリア教育を主に扱うのが3学期になっているため、年間を通して意識できなかったところがあり、教師の評価が0.2ポイント下がっている。学校行事・学年行事をはじめとするいろいろな活動の中で、教師がどう意識して取り組んでいくのが今後の課題である。</p> <p>○学びあいの充実と基礎的・基本的な知識の定着 一昨年度から全学年の各班に1枚のホワイトボードの導入を行い、あらゆる場面でペアや4人班の学びあいの取り組みを活発に行ってきた。そのため、ホワイトボードを活用した学び合いが全教科・全活動で行われるようになり、生徒が自然に自分の考えをスムーズに言えたり、友人の意見を聞き、まとめて発表できる力もついてきたように感じられ、学び合いに関する生徒・教師へのアンケート結果のポイント数が0.1つつ上昇した。</p> <p>また、本時のめあてを提示し、生徒に振り返らせることで、生徒の理解が深まってきた。さらに、授業のねらいを明確にし、授業改善を図っていきたい。</p> <p>読書活動の推進については、今年度も市の研究指定を受け、おすすめ本の読書1分間スピーチが定着した活動となってきた。</p> <p>○家庭学習の推進 Daily Study（毎日の学習）の取り組みを行い4年になる。帰りの短学活で行う学びの時間のシート学習ともリンクし、家庭学習の定着を図ることができている。そのためか昨年度に引き続き、家庭学習に対する生徒へのアンケートも昨年同様3.7と評価が高く、生徒にとっては達成感はあるようである。さらに、全ての生徒にとって有意義な取り組みになるよう、進め方や個々の生徒への対応等について改善し、引き続き家庭学習充実に向けた工夫をしていく。</p>	
重点目標 2	心を豊かにする羽津らしい活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○生徒主体による規律ある学校生活の推進 生徒会を中心に代議員や各専門委員会の取り組みは、生徒・教師とも意識が高く、充実した活動をすることによって、規律ある、落ち着いた学校生活を送る環境を整えることができた。生徒会を中心とした規律ある学校生活に関するアンケート調査で肯定的な回答をした生徒は85%、生徒の自主的な活動に関するアンケート調査で肯定的な回答をした生徒は87%であった。</p> <p>○文化・芸術活動の充実 「山のコンサート」「合唱コンクール」では、合唱実行委員会や生徒会が主体となり、取り組むことができたものの、全体として取り組む意識が下がった感がある。また、教師の役割が不明瞭な部分があり、教師全員で行事に取り組む意識に多少の差異が生じ、生徒文化活動に関する生徒・保護者の評価が3.5、3.4に対し、教師の評価は3.0であった。来年度の方向性について教師全員の共通理解を図ることで、伝統ある地域に根付いた素晴らしいものにしていきたい。</p> <p>「体育祭」においても、生徒会を中心に生徒自らで作り上げていく雰囲気を感じられた。</p> <p>○道徳・人権学習の充実 人権学習では各学年で計画的に取り組むことができ、それぞれの授業で生徒の視野を広げ、生徒の感性を揺さぶり育むことができた。道徳では各学年での事前準備や反省については密に行っていたが、年度当初の計画と実施内容については差異が生じた。人権に関する教師へのアンケート結果は83%が肯定的な評価となっている反面、道徳に関する教師へのアンケート結果は77%が肯定的な評価にとどまっている。道徳の教科化本格実施に向けて、3年間を系統立てた計画・教材について、さらなる研修が必要である。</p>	

重点目標 3	相互信頼に基づいた生徒指導	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○生徒指導の充実</p> <p>一昨年度から、週1回行われる生徒指導委員会で話し合われた情報について、全教職員にメールで知らせ、組織的な対応ができるようにしてきた。学校全体で共通理解を持って、積極的に他学年の指導にもかかわることができた。メール配信により全学年の生徒の様子を把握することができ、全ての職員が同じ目線で生徒を見ることができた。その成果もあり、生徒指導の教師に対するアンケート「情報共有と敏速な対応」については、93%の教師が肯定的な評価を行っている。また、不登校、支援生徒を含めて生徒指導報告に一本化したので情報量は多くなったが重複することがなくなった。来年度も継続して行っていく方向である。</p> <p>現在、生徒は落ち着いた環境の中で学校生活を送っているが、現状に満足することなく、さらに生徒との信頼関係を高める中で生徒指導を進めていきたい。</p> <p>○研修を深め効果的な教育相談の実施</p> <p>教育相談に関する教師に対するアンケート結果は0.3ポイント下がっているものの、生徒に対するアンケート「教育相談で話したとき、先生は親身に話を聞いてくれましたか」の質問に対しては3.7ポイントで高い評価を得られ、93%の生徒が肯定的な評価を行っている。しかし、教師は教育相談が十分に行えたとは感じておらず、多忙な状況下において、ゆっくり生徒に寄り添えなかったり、養護教諭やSC、他の教師との連携不足を感じることもある。今後も生徒のいろいろな状況に対して、組織的に対応できるよう共通理解を図る必要がある。</p> <p>○不登校対策の推進</p> <p>隔週で、不登校対策委員会を実施し、その中で話し合われたことや生徒情報を、全教職員にメールで知らせ、共通理解できるように努めてきた。支援が必要であったり、長期欠席につながりそうな生徒に関しては、ケース会議を開き、支援方法等を管理職を含め複数の教職員で対策を講じることができた。また、生徒や保護者を外部機関やSCにつなげ、専門的な意見を取り入れた不登校対策を行うこともできたが、学力不振や部活動に適応できないことなどを理由に登校できなくなるケースが増えている。これまでの指導や支援では改善が難しい生徒も多く、今後どのように対応していくかのかを検討する必要がある。また、職員の意識改革にも取り組むことが大切である。</p>	

2 改善方針

<p>重点目標 1 確かな学力の向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校活動の全領域で、キャリア教育（社会的・職業的自立のための4つの力）の視点を取り入れ、生徒が自らの成長を感じ取れるような取り組みを進める。 ・日々の家庭学習の充実を図り、生徒個々の学習状況を把握し基礎学力の向上を目指す。 ・読書活動の推進を継続する。 <p>重点目標 2 心を豊かにする羽津らしい活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事を含めた学校活動において、生徒が主体的に活動できるような取り組みをさらに推進する。 ・「私たちの道徳」等の教材の研修を深め、道徳授業の充実を図る。 ・学校便りや、学年通信、ホームページを活用して保護者や地域への日常的な発信を行い、地域や保護者と連携した学校づくりを継続する。 ・外部講師の活用を積極的に行い、生徒に本物の文化・芸術や、いろいろな価値観、発想に触れさせる機会を設ける。 <p>重点目標 3 相互信頼に基づいた生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒の減少に向けSCとの連携を深めるとともに、効果的な外部機関との連携や不登校生徒へのよりよい支援方法等の研修を深め、ケース会議の充実を図る。 ・問題行動・生徒の情報を敏速に共有し、きめ細かい生徒指導を継続する。また、現状に満足せず、生徒との信頼関係を深める取り組みを推進する。 ・教育相談や教師と生徒の信頼関係の一層の充実を図るために、外部講師の招聘を行い、生徒理解に対する研修の推進を図る。 ・保幼小中との連携を深め、児童生徒の情報交換をより一層密にし、生徒指導や教育相談にあたる。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 西朝明中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	「学びあいを通して」確かな学力の定着・向上	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いての研修では、より広い観点で「学び合い」についての研修を深めることができた。また、新たな考え方として「アクティブラーニング」の考え方を取り入れた授業展開についても深められた。 ・それぞれの教師が、それぞれの教科・授業の中で「学び合わせる工夫と時間の確保」・「本時のめあてと振り返りの確認定着」を意識できたことは良かったと思うが、生徒側から見た場合、それがより学習を深める機会となっていたかの検証（生徒の思い・感想を把握する、など）も必要と思われる。 ・個に応じた指導の充実では、ミラクルタイムによる学力補充は計画的に行えたと思うが、全校生徒対象ではない。ユニバーサルデザインを取り入れた授業の推進は、特別支援教育推進委員会を中心に推進しているが、単発的でマニュアル作成には至っていない。 ・学びの一体化を通じた指導の連携強化は少しずつ形となってきたと思う。 ・ペア学習や4人班(グループ)・全体での意見交流などを取り入れることは、学力の定着や向上につながると感じた。 ・心の健康は生徒観察や教育相談等で行っているが、心が折れやすい生徒は依然としているので、生徒との心の触れ合いを大切にしていきたい。 ・確かな学力をつけるためには、家庭の協力も不可欠であり、うまく巻き込むことが大切である。 	
重点目標2	互いを尊重し高めあう集団の育成	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まず生徒会から、自分たちの発想で企画し、提案し、実践することで、何らかの成果を生み出そうとしてきた。生徒たちは、充実感や満足感が感じられ、積極性が培われてきた。 ・本校の生徒指導上課題となる特徴的な事案は、不登校生徒の割合が高いことといえる。その主な要因は、本人の内面的な要素や家庭環境もあるが、対人的な弱さも見受けられることから、「他への思いやり」や、「尊重し合う」ことの意識を高めることと社会的「共に生きる力」の向上をさらに高める必要があると思われる。校内研修会・生徒指導委員会・学年会・生徒会等から生徒に意識喚起できるような積極的な取り組みを図っていきたい。 ・行事の取り組みにおいて、リーダー会を定期的に関き役割や責任を持たせ主体的に活動する場面を設定することでリーダーを中心にクラスの仲間づくりができた。 ・室長会、班長会をもっと積極的に行い、生徒の自主性を高めることが必要。 ・特別支援教育もスーパーバイザーやカウンセラーの先生方と共に、全教員で共通理解されていた。 ・1、2年次の積み上げのもとで人権学習を行うことで自分自身を振り返り差別と向き合うことの大切さを考えさせることができた。 ・生徒の実態や学年に応じた道徳教育を行うために、題材等工夫できていると思う。また、特別支援教育に対する意識も高く、多くの職員が積極的に関わっていると思う。 	

重点目標 3	健康（心身）の保持増進と体力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康には「身体」の健康面と「心（精神）」の健康面があるが、学校生活での身体の健康推進と共に、クラスや学年の中で切磋琢磨する企て等の充実・向上により、情操教育を深めるための「心の健康」の推進も大切であるという点で、成果と課題があった。 ・部活動の意義を再確認し、その成果を最大限得られるような取り組み（指導）を行うことが求められる。教育相談や家庭訪問などを通じて、生徒の心のケアの充実を図る。 ・部活動や学級・学年内生活での生徒同士の人間関係の未熟さ等から不登校に陥ることがあり、課題である。 ・部活動では、社会の一員として校内清掃や美化活動などの奉仕活動にも取り組ませることができた。 ・登下校では保護者の送迎が多く、生徒の運動量の差が大きい。（甘える生徒が多い？） ・心の面においては、スクールカウンセラーの先生や養護の先生等の働きかけなどによる連携があり、生徒に寄り添った支援や指導を推進できている。さらに、1人ひとりの心のケアとともに、心身ともに強くなるための方策を考えていきたい。（粘り強さ、根気、対人的な強さ等） ・心身の健康についての情報発信を、生徒や保護者・教員に向けて、たよりや掲示板、会議・講習会などで行えた。また個別対応での指導も行えた。 	

2 改善方針

<p>① 学力の向上については、まず授業改善を強く進める。</p> <p>② 学力の定着に向けては、全校生徒による補習授業を隔週で実施し、基礎学力の定着を図る。</p> <p>③ 集団づくりについては、今後も生徒の自主性を重んじ、自発的な企画・運営により、学校としての活動・生徒会としての取り組みを勧め、自主・自律の機運を高めることにより、集団としての行動力を体感させる。</p> <p>・学校教育活動である、学級経営・教科授業・生活指導・道徳指導・部活動指導・校務分掌等、生徒に関わるあらゆる面での各自の発想と、職員の共通理解・情報の共有を大切にしながら、教育活動を進めたい。</p> <p>・「学び合い」をさらに効果的にするために、ねらいの明確化や課題設定、評価方法などを見直し、授業の中でしっかりと実践していく。「学び合い」・「話し合い」のルールをはっきりしたりスキルを身に付けさせたりする。</p> <p>各教科のグループ活動や生活班の活動、学校・学年行事、部活動などで仲間づくりを意識した活動を工夫していくことで、お互いの信頼関係を築くことが大切だと思う。そうすれば、学び合い、支え合い、励まし合える集団の育成に繋がると思う。</p> <p>・ホームページを充実させたのが今年度の大きな収穫だったと思う。ただし、アップする頻度の違いが大きく、どの先生も自分の担当の学年や部、分掌をアップできるようになれると良いと思う。担当の先生だけがアップするのではなく、誰もが気軽にアップできるようになると良い。更新を楽しみにしている保護者は多いし、お便りをHPで確認している家庭も多いため。</p> <p>・各教科共通した「話し合う時のルール」を決め、どの教科でも話し合う機会を設定し学び合える集団作りを進める。</p> <p>・部活動の設置数については早急に改善する必要がある。</p>

【様式1】

自己評価書

四日市市立 桜中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>《主な方策と成果》</p> <ul style="list-style-type: none">・テスト期間中の補充学習を定期的に行い、個別の指導を行うことで、学習意欲を高めることにつながった。・小テストなどを定期的に行い、基本の定着が図れた。・帰りの会などを利用し、シート学習を行うことで、落ち着いた学習環境を整い、学習の向上が見られた。・各学年のCRT検査、全国学力・学習状況調査の結果の分析を行うことで、各教科の授業改善につながった。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none">・校内研修と連携し、グループ学習の取り組みを入れたり、学習意欲をなくしている生徒への手立てを考える。	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>《主な方策と成果》</p> <ul style="list-style-type: none">・福祉体験学習や職業体験学習の取り組みでは、地域のボランティアの方々の講演により、生徒がしっかりと受けとめ、学習できていた。・生徒会や室長会を活用して、生徒の自治能力を高めることができた。・身近な内容を取り入れた道徳の授業や人権学習に取り組むことができ、他者とのかわりの面で、心の成長が感じられる場面が増えた。・日々の生徒の様子を観察し、その変化に組織的に対応することができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none">・自己肯定感が、全体的に高まっていない。・言われたことはできるが、自主的に行動できない生徒が多い。	
重点目標 3	健やかな心と体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>《主な方策と成果》</p> <ul style="list-style-type: none">・保健体育科の授業だけでなく、部活動の指導に積極的に取り組むことで、体力の向上につながった。・学期ごとに教育相談週間を設け、QU調査などを利用し教育相談体制を充実させることで、生徒理解が深まった。・防災講演会・防災フェスタ・避難訓練、防災ノートを使って授業をするなど、より生徒の災害に対する意識を深めることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none">・自分のできないことや間違いを指摘されるととても傷つきやすく、素直に自分の非を認められない生徒が多くなっており、課題といえる。	

重点目標 4	教職員の指導力向上と組織的な進行管理	4
主な方策 成果と課題	<p>《主な方策と成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各研修会に個人が意欲的に取り組むことで、学校全体の実践につながっている。 ・研修のあり方について考える機会が増えており、学級経営なども学年ごとではなく、学校全体で統一できつつある。 ・校内の計画的な授業公開により、お互いの研修が進み、積極的な授業改善につながった。 ・校務のデータを整理することで、教職員の情報共有化が進み効率的な業務遂行につながった。 ・特別支援学級や普通学級で支援が必要な生徒への支援体制の整備ができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状を分析しそれに即した研修テーマを設定することが必要。 ・自己評価をさらに充実させ、PDCAサイクルを意識していくことが必要。 ・本年度の成果をいかに継続させていくか。 	

重点目標 5	家庭・地域との協働	3
主な方策 成果と課題	<p>《主な方策と成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールを受けたことにより、中学校の現状をよく知ってもらう機会が増えた。 ・福祉体験学習での桜ボランティア、見守り隊、桜地区防災会議と協力した防災フェスタ、生徒会と青少協との討論会など、地域で活動される方々と話し合える機会があり、学校教育への理解につながった。 ・いっすん奉仕などのPTA活動を土曜授業に開催することで、保護者と生徒だけの活動に終わらず、地域の方々の協力につながっている。 ・各地区の行事や人権大会に教職員が積極的に参加することで、地域の良さを再認識し、相互理解が深まった。 ・丁寧に対応することで、家庭からの相談しやすい環境が生まれ、保護者と連携することができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な情報発信はしているが、各行事とも保護者の参加がやや少なかった。また、「進路」のとらえ方に差があるため、キャリア教育の意義を保護者に発信していきたい。 	

2 改善方針

- ・学校づくりビジョンを明示し、教職員に充分浸透させる。全教職員で、学校づくりビジョンを意識した教育活動にあたる。
- ・全教科を通して、わかる授業のさらなる工夫と言語活動の深化を図る。校内研修の充実と校外の研修会への積極的な参加を心がける。
- ・より効果的な指導方法の工夫についての研修を深化させ、担当者の共通意識を図る。
- ・教育活動全体を通じて、身近な生活における安全への知識や実践力を高め、すべての生徒が、安心して学校生活を送ることができる教育環境を提供する。
- ・3年間を見通した人権学習計画や進路学習計画を確立し、さまざまな学習活動を通して、人権教育、キャリア教育を進める。
- ・校務の整理と見直しをすることで、総勤務時間の縮減を図る。
- ・今後もホームページや学年・学校だよりなどを定期的に発信するなど、情報提供を積極的に行うことで、学校経営の透明性を確保し、家庭・地域に開かれた学校づくりを進めていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 内部中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	豊かな人間性と健康な心身の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○キャリア教育の推進に努めます。</p> <p>主な方策</p> <ol style="list-style-type: none">① 志講演・志授業による、長期的な人生設計についての学習② 夢タマゴ、夢地図の作成による、上記①の見える化③ 身近な「生き方モデル」から学ぶ、「プロに聞く：企業人による講演」④ 職業観・勤労観、社会人としてのマナー等を学ぶ「職場体験学習」⑤ 中学3年生時の進路選択を支援する、「学力補充」「高校体験講座」 など <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none">・近い将来（高校受験）ではなく、その先を見据えた進路意識（見通し）をもたせることができた。・「何のために学ぶのか」を考えられるようになり、学校全体の学習意欲が高まってきた。・進路の実現のために、今できることを意識させる指導が必要である。 →学んだことと日常生活とのつながり <p>★学校自己評価（生徒） 学校では、将来に向けて夢や志を持つことの大切さや、自らの生き方（進路）を学習している。【肯定的回答90%】</p>	
重点目標2	確かな学力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○基礎・基本の定着とわかる授業をめざします。</p> <p>主な方策</p> <ol style="list-style-type: none">① T-Iの効果的な活用と、授業に遅れがちな生徒の支援② 電子黒板やプロジェクタを活用し授業の実施③ 全国学力学習状況調査やCRT（到達度検査）の分析と活用④ 放課後、長期休業日、土曜日を活用した補充学習 など <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none">・学力補充の機会を利用する生徒が、回を重ねるごとに増えている。・CRTの数値は学年が進むにつれて上昇しており、基礎学力の定着が見られる。・習得した知識・技能を、活用するための思考力・判断力・表現力の育成が課題である。 <p>★学校自己評価（生徒） 先生は、授業をていねいに分かりやすく教えている。【肯定的回答91%】</p>	

重点目標 3	地域に開かれた学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○地域との連携・交流に努めます。</p> <p>主な方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生徒の地域行事への積極的参加体制の構築 ② 積極的な学校公開（土曜授業の活用） ③ 学校だよりやHPによる情報発信 ④ 地域人材によるゲストティーチャーの活用 など <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内部川清掃、地区防災訓練等へ中学生が多数参加することで、地域の活性化につながっている。 ・ 学校だより、HPによる発信は、日々の学校の様子をタイムリーに知らせることができ、中学校がめざす教育について多くの方に知っていただけた。 ・ 中学校を支援していただけるファンを、さらに拡大していく。 <p>★学校自己評価（保護者）</p> <p>学校の教育活動は全体的に見て満足できる状態にある。【肯定的回答94%】</p>	

2 改善方針

<p>1. 豊かな人間性と健康な心身の育成 ～キャリア教育の推進～</p> <p>キャリア教育に関する特色ある取組は、数多く行っており、本校の教育の中に定着している。そこで、それぞれをさらに関連付け、学年に応じたキャリア発達目標を意識して、キャリア教育を実践していく。</p> <p>また、遠い将来を考えるキャリア教育から、日々の生きる力を確かなものとしていくキャリア教育にシフトし、「将来のための、今を大切に作る生徒」を育成する。</p> <p>2. 確かな学力の向上 ～基礎基本の定着とわかる授業～</p> <p>落ち着いた中で意欲的に取り組む生徒が多い中でも、学力不振や自己肯定感が低いことが原因で、不登校となる生徒も存在する。そこで、「わかる授業」のとらえを、「わかったと実感のできる授業」とし、生徒主体となる授業についての研修を深める。</p> <p>課題の工夫や学習形態、授業形態、教具等の工夫により、生徒同士がつながりの中で学ぶ方法を、研究する。</p> <p>3. 地域に開かれた学校づくり ～地域との連携・交流～</p> <p>交通安全や防犯の観点から、地域と一体となっていく安全教育の推進を行う。</p> <p>また、継続して学校の様子を地域に向けて発信することで、学校の強み・弱みを知っていただき、その結果として、学校教育を側面から支援いただける方、組織を増やす。</p> <p>内部の子は、内部のみんな育てる意識の浸透をはかる。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 楠 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	学力の向上に向けて	3
主な方策 成果と課題	<p>○学校教育目標に掲げている「基礎基本の定着と問題解決能力の育成」に向け、学習や生活リズムの確立等を中心とした取組の充実を図っている。また、学校体制により「授業四か条」「基礎学習の流れ」「家庭学習の手引き」等を作成し、授業・補充学習・家庭学習等の主体的な取組につなげることができた。さらに、生活リズムチェック等のアンケートを行い、取組の検証や改善に努めた。</p> <p>○学びの一体化においては、中学校区の保幼小中教職員が、研究テーマ「学力向上に向けて～進んで学ぶ子どもの育成」に向けて話し合うことにより、本地区の子ども・保護者がかかえる教育課題が明確になった。また、それらの課題を共有し、具体的な対策を立てて取組を進めたことにより、主体的・協働的な学びに結びついている。これらの取組や研修等の検証や振り返りを行い、保幼小中で指導・支援等の研修を深め、さらなる改善に努めることが重要である。特に小1プログラム、中1ギャップ等、保幼小中の連結をよりスムーズにしていくことが今後の課題である。</p>	
重点目標 2	生徒指導の充実・特別支援教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○生徒指導委員会では、週1回、SCも入り生徒の情報交換及び課題解決に向けての対策等話し合い、学習・生活規律を中心としたきめ細かな情報共有を図っている。特に複雑で多様な課題を持つ不登校生徒に対する指導・支援については、SC、民生委員、市教委等と連携を図り、生活状況やその背景等、本人（保護者）の願いや思いを受け止めながら、チームとして取り組んでいる。3年生の不登校生徒については、希望する進路につながった生徒もいる。</p> <p>○特別支援教育の充実を図るため、特別支援教育コーディネータを中心に特別支援委員会をはじめ、毎週の生徒指導委員会や職員会議等で現状と対策話し合い、一人ひとりの生徒の課題を共有し、その生徒や保護者のニーズにあった教育支援を組織的に行なっている。これらの取組により教職員と生徒や保護者の信頼関係が深まった。また、子どもの目線に立ち、個々の障壁を取り除くための合理的配慮等に向けての研修を学校体制で充実させていきたい。</p>	
重点目標 3	キャリア教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○自己理解を通して、自らの生き方を考えさせるキャリア教育を全校体制で行った。学校教育目標の「志を持ち、自らの進路を切り拓いていける生徒」の育成をめざし、3学年は、進路に向けての学習や「高校訪問等の実践的な取組」を行った。2学年は、地元企業における「職場体験学習」や高校の教師を招いての「親子進路学習会」を行なった。1学年は、「高齢者交流会」や「ドリームマップづくり」を行なった。また、これらの取組に向けての事前学習や事後学習等、お互いの取組の成果を発表し確認し合うことで、生徒同士のつながりが学年を越えて深めることができた。</p> <p>○保護者による「仕事をするうえで大切なこと」や卒業生による「高校生活や学習」の話を聞くことにより、将来に向けて自分自身の日常生活を振り返ることができた。</p> <p>○学校だよりやHP、各通信で保護者や地域等に発信することにより、学校に対する協力体制を得ることができた。</p>	

重点目標 4	体づくり運動の充実・健康教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○体づくり運動の充実と生徒の健康意識を高めるため、保健体育授業の中で生徒の自主的な活動として、新体力テストの本校の弱みをふまえ、独自に考えた筋力トレーニングやランニング等を実施している。また、12月上旬より2月下旬にかけて部活動の朝練習において、一斉に20分間ランニングを行っている。これらの取組により、平成28年度新体力テストの結果では、男女とも昨年度にくらべ向上した種目もある。</p> <p>○保健委員会活動においては、規則正しい生活習慣や食育教育の充実を図るため、「早寝・早起き・朝ごはん」等に重点をおいた生活習慣アンケートの取組を行なった。また、毎日の健康観察やアンケート結果を通し、生徒の生活状況や食育等の実態把握に努めた。これらを、保健委員会活動として生徒がパワーポイントを活用し、全校生徒集会で呼びかける等の啓発活動を行なった。さらに、これらの年間を通しての取組を養護教諭が中心に「平成28年度学校保健資料」にまとめ、管理職、養護教諭、学校三師、PTA等による学校安全委員会において、現状報告と情報交換を行った。</p>	

重点目標 5	学び合いを基盤とした教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○子どもの学ぼうとする力を育成するために、授業における教師の支援、子どもの能動的・主体的活動（アクティブラーニング）についてさらに研修を深める必要がある。また、「ねらいと振り返り」の意義についての意見交流が必要である。</p> <p>○学びの一体化研修の一環として行っている小学校との乗り入れ授業では、英語・数学・音楽等の授業を行い交流を深めることができた。</p> <p>○新入生一日体験入学において、児童が選択した、30分間の授業を2教科体験した。教師や仲間の話を意欲的に聴き、自分の考えや思いを進んで発表したりすることができた。これらを通し、中学校の学習や生活に向けてのイメージを持つことができた。</p> <p>○文化祭では保育園児・幼稚園児・小学校児童を招待し、合唱コンクール鑑賞や展示見学を行なった。このような交流を行なうことにより、子どもたちが相互に良さや違いを認め合い、絆を深めることができた。また、毎年実施している巨大地震による津波を想定した合同避難訓練では、中学生が保育園児の手を引き、本校屋上に安全に誘導する等、危機管理の徹底及び意識の向上を図ることができた。</p>	

2 改善方針

<p>○本年度の校内研修会を通し、「めあてと振り返り」について意識をして取り組むことができた。しかし、基礎基本が身につけていない生徒や、学習習慣が十分ついていない生徒については、個別対応がもっと必要で、時間や教師の人数が足りない現状ではあるが、計画的・継続的な組織対応が大切である。</p> <p>○学びの一体化研修で、ほかのグループが話し合ったことが口頭での短い共有だけでなく紙媒体などでもっと具体的に共有できるとよい。</p> <p>○生活背景等に複雑な課題を持つ不登校生徒及び保護者等については、教育相談や家庭訪問を計画的・継続的に粘り強く行っている。また、SC、民生委員、市教委等との連携を図り、「チーム楠」として学校体制で取り組む。</p> <p>○教師間のホウレンソウや連携については、あらゆる情報を早期共有し、学年・学校全体で解決していく為に職員のコミュニケーションを高めていく。</p> <p>○このような実践的な取組を通し、職場内でのOJTを仕組み、生徒指導等をはじめ、あらゆる指導・支援における若手教職員の育成に努めていきたい。</p> <p>○今後とも、学校・保護者・地域・行政等が一体となった取組の充実を図りたい。</p>
